【5】ヴィサーカー・ミガーラマーターの詳細な伝記＊

＊【4】の［1］参照

［1］ヴィサーカーの誕生と家系＊：*DhA.*（vol. I p.384,ll.13～p.385,l.5）；*AN.-A.*（vol. I p.405,ll.8～19）

＊【4】の［10-10］参照

D ‘yathāpi puppharāsimhā’（1） ti imaṃ dhammadesanaṃ satthā sāvatthiyaṃ upanissāya pubbārāme viharanto visākhaṃ upāsikaṃ ārabbha kathesi.

sā kira aṅgaraṭṭhe(2) bhaddiyanagare(3) meṇḍakaseṭṭhiputtassa dhanañjayaseṭṭhino aggamahesiyā sumanādeviyā kucchismiṃ nibbatti,

（1）底本は pupparāsimhā とするが、*Dhammapada* V.53 によって訂正した。

「花の集積から〔花環が作られる〕ように」〔ではじまる〕この説法 (1) を、尊師は舎衛城の近くの東園に住しておられた時に、ヴィサーカー優婆夷に関して説かれた。

伝え聞くところでは、彼女（ヴィサーカー）はアンガ国 (2) のバッディヤ市 (3) において、メンダカ長者 (4) の息子ダナンジャヤ長者 (5) の第一夫人スマナー・デーヴィーの胎内に生を結んだ。

（1）この偈は『法句経』（大正 04　p.563 中）、『法句譬喩経』（大正 04　p.585 下）、『法集要頌経』（大正 04　p.786 上）と、*Udānavarga* V.18、*Gāndhārī Dhammapada* V.293 に相当する。

（2）マガダ国の東隣にあった国で、十六大国の一つ。釈尊時代にはマガダの属国になっていたものと考えられる。アンガ国を仏在処・説処にする原始聖典には次のようなものがある。*DN.004 soṇadaṇḍa-s.*（vol. I p.111）、『長阿含』022「種徳経」（大正 01　p.028 上）、『長阿含』010「十上経」（大正 01　p.052 下）、*MN.039 mahā assapura-s.*（vol. I p.271）、『中阿含』182「馬邑経」巻上（大正 01　p.724 下）、*MN.040 cūla assapura-s.*（vol. I　p.281）、『中阿含』183「馬邑経」巻下（大正 01　p.725 下）、『中阿含』192「加樓烏陀夷経」（大正 01　p.740 下）、『中阿含』081「念身経」（大正 01　p.554 下）、*SN.048-050*（vol. V　p.225）、『増一阿含』049-008（大正 02　p.801 下）

（3）バッディヤを仏在処・説処とする原始聖典には次のようなものがある。*AN.005-004-033*（vol. III p.036）、*Vinaya*「皮革犍度」（vol. I　p.189）、『四分律』「皮革揵度」（大正 22　p.847 中）、*Vinaya*「皮革犍度」（vol. I　p.190）、*Vinaya*「薬犍度」（vol. I p.240）、『四分律』「薬揵度」（大正 22　p.872 中）、『五分律』「薬法、食法」（大正 22　p.150 中）、『十誦律』「医薬法」（大正 23　p.191 上）、『五分律』「食法」（大正 22　p.151 中）

（4）メンダカ長者の名前が上がる原始聖典には次のものがある。『増一阿含』006-001（大正 02　p.559 下）、*AN.006-012-120*（vol. III p.451）、*Vinaya*「薬犍度」（vol. I　p.240）、『四分律』「薬揵度」（大正 22　p.872 中）、『五分律』「薬法、食法」（大正 22　p.150 中）、『十誦律』「医薬法」（大正 23　p.191 上）

（5）ダナンジャヤ長者およびスマナーデーヴィーという名が上がる原始聖典はない。

A tatrāyaṃ saṃghadāsī ekaṃ buddhantaraṃ devamanussesu saṃsaritvā imasmiṃ buddhuppāde aṅgaraṭṭhe bhaddiyanagare meṇḍakaseṭṭhiputtassa dhanañjayaseṭṭhino aggamahesiyā sumanādeviyā nāma kucchismiṃ nibbatti. visākhā ti 'ssā nāmaṃ

akaṃsu.

（ヴィサーカーの前生であるカッサパ仏時代のサンガダーシーの記事に続けて）そこでサンガダーシーは一無仏時代を天界と人間界にだけ輪生しながら〔過ごして〕、今の仏（釈尊）が出現した時に、アンガ国のバッディヤ市において、メンダカ長者の息子ダナンジャヤ長者の、スマナー・デーヴィーという名の第一夫人の胎内に生を結んだ。人々は彼女にヴィサーカーという名を付けた。

D tassā sattavassikakāle satthā selabrāhmaṇādīnaṃ bodhaneyyabandhavānaṃ upanissayasampattiṃ disvā mahābhikkhusaṅghaparivāro cārikaṃ caramāno taṃ nagaraṃ pāpuṇi.

ヴィサーカーが７歳の時に、尊師はセーラ・バラモン (1) などの覚るべき者 (2) らに機根の成就を見て、大比丘サンガを従えて遊行し、その都市に至られた。

（1）セーラ・バラモンは *MN. 092 Sela-s.*（vol.Ⅱ　p.146）、*Suttanipāta 003-007*（p.102）によれば、Aṅguttarāpa の Āpaṇa においてケーニヤ（Keṇiya）結髪梵志が釈尊を食事に招いた際に出家した。Āpaṇa と Bhaddiyanagara は近くにあったと解される。

（2）「覚るべき者」‘bodhaneyyabandhava’とは「覚るべき親族」が直訳であるが、ここで「親族」（bandhava）はブッダの親族、仲間の意である。「覚る能力を具えた〔ブッダの〕親族」。

A tassā sattavassikakāle dasabalo selabrāhmaṇassa ca aññesañ ca bodhaneyyabandhavānaṃ upanissayasampattiṃ disvā mahābhikkhusaṃghaparivāro cārikaṃ caramāno tasmiṃ raṭṭhe taṃ nagaraṃ sampāpuṇi.

ヴィサーカーが７歳の時に、十力者はセーラ・バラモンとその他の覚るべき者らに機根の成就を見て、大比丘サンガを従えて遊行し、その国のその都市に至られた。

D A tasmiñ(1) ca samaye meṇḍako gahapati tasmiṃ nagare pañcannaṃ mahāpuññānaṃ [385] jeṭṭhako hutvā seṭṭhiṭṭhānaṃ karoti. pañca mahāpuññā nāma meṇḍako seṭṭhī candapadumā nāma tass' eva jeṭṭhakabhariyā(2), tass' eva jeṭṭhakaputto(3) dhanañjayo nāma, tassa bhariyā sumanādevī nāma, meṇḍakaseṭṭhissa dāso puṇṇo nāmā ti.

（1）tasmiñ. *AN.-A.*は tasmiṃ とする。

（2）jeṭṭhakabhariyā. *AN.-A.*は aggamahesī とする。

（3）jeṭṭhakaputto. *AN.-A.*は putto とする。

その時、メンダカ長者は、その都市に住む５人の大功徳ある人々の中で最年長になり、長者の位に就いていた。５人の大功徳ある人々とは、メンダカ長者、その第一夫人のチャンダパドゥマー、メンダカ長者の長子ダナンジャヤ、その妻のスマナー・デーヴィー、メンダカ長者の下僕プンナであった。

［2］ビンビサーラ王国における５人の長者：*DhA.*（vol. Ⅰ　p.385, ll.5～8）；*AN.-A.*（vol. Ⅰ p.405,ll.19～22）

D A na kevalañ ca meṇḍakaseṭṭhī eva(1), bimbisārarañño pana vijite(2) pañca amitabhogā nāma ahesuṃ, jotiyo, jaṭilo, meṇḍako, puṇṇako, kākavaliyo ti.

（1）na kevalañ ca meṇḍakaseṭṭhī eva. *AN.-A.*は na kevalaṃ meṇḍakaseṭṭhi yeva とする。

（2）bimbisāraraññо pana vijite. *AN.-A.*は bimbisāramahārājassa pana āṇāpavattiṭṭhāne とする。

メンダカ長者だけではなく、ビンビサーラの領土には5人の無尽の財産をもつ者があり、ジョーティヤ、ジャティラ、メンダカ、プンナカ、カーカヴァリヤが無尽の財産を有していた。

［3］ヴィサーカーが7歳の時に預流果を得る：*DhA.*（vol. I p.385,ll.8～24）；*AN.-A.*（vol. I p.405,l.22～p.406,l.18）

D A tesu ayaṃ meṇḍakaseṭṭhī dasabalassa attano nagaraṃ sampattabhāvaṃ ñatvā(1) puttassa dhanañjayaseṭṭhino dhītaraṃ visākhaṃ dārikaṃ pakkosāpetvā(2) āha: “amma tuyham pi maṅgalaṃ, amhākaṃ pi maṅgalaṃ, tava parivārehi(3) pañcahi dārikāsatehi saddhiṃ pañca rathasatāni āruyha pañcahi dāsisatehi(4) parivutā dasabalassa paccuggamanaṃ karohī” ti. sā “sādhū” ti paṭissuṇitvā tathā akāsi(5). kāraṇākāraṇesu pana kusalattā yāvatikā yānassa bhūmi yānena gantvā yānā paccorohitvā pattikā va satthāraṃ upasaṅkamitvā vanditvā ekamantaṃ aṭṭhāsi. ath' assā cariyāvasena(6) satthā dhammaṃ desesi, sā desanāvasāne(7). pañcahi dārikāsatehi saddhiṃ sotāpattiphale patiṭṭhahi(8).

（1）ñatvā. *AN.-A.*は sutvā とする。

（2）*AN.-A.*は āha の前に evam を挿入する。

（3）parivārehi. *AN.-A.*は parivārikāhi とする。

（4）dāsisatehi. *AN.-A.*は dāsikāsatehi とする。

（5）*AN.-A.*は sā pitāmahassa vacanaṃ sutvā tathā akāsi（ヴィサーカーは祖父の言葉を聞いて、そのようにした）とする。

（6）cariyāvasena. *AN.-A.*は caritavasena とする。

（7）sā desanāvasāne. *AN.-A.*は desanāpariyosāne とする。

（8）patiṭṭhahi. *AN.-A.*は patiṭṭhasi とする。

その無尽の財産を持つ者の中で、このメンダカ長者が十力者の自分の都に到着されたことを知り、息子ダナンジャヤ長者の娘であるヴィサーカーという少女を呼んで「孫娘よ、お前にも吉祥があろう。私にも吉祥があろう。お前は、お前の取り巻きの500人の少女とともに500台の車に乗り、500人の下女（dāsī）を従えて、十力者をお出迎えしなさい」と言った。ヴィサーカーは「分かりました」と返事をし、そのようにした。しかも、なすべきこととなすべからざることをよくわきまえていたので、車で行けるところまでは車で行き、車から降りて、徒歩で尊師に近づき、礼拝し、一方に立った。そこで、ヴィサーカーの性行に合わせて(1)、尊師は法を説示した。説法が終わった時に、彼女は500人の少女とともに預流果に達した。

（1）cariyāvasena(*DhA.*), caritavasena（*AN.-A.*）carita は「性格」「気質」（pakati）の意味がある。浪花宣明『サーラサンガハの研究』平楽寺書店、1998年、p.233

D meṇḍakaseṭṭhī pi kho satthāraṃ upasaṅkamitvā dhammakathaṃ sutvā sotāpattiphale patiṭṭhāya svātanāya nimantetvā punadivase attano nivesane paṇītena khādanīyena bhojanīyena buddhapamukhaṃ bhikkhusaṅghaṃ parivisitvā eten' eva

upāyena aḍḍhamāsaṃ mahādānaṃ adāsi. satthā bhaddiyanagare yathābhirantaṃ viharitvā pakkāmi.

メンダカ長者も尊師に近づき、説法を聞き、預流果に達し、翌日の食事に招き、あくる日に自身の家において硬軟の美食をもって、仏陀を上首とする比丘サンガに給仕し、そのようにして半月にわたって大布施を施した。尊師はバッディヤ市において、心のおもむくまま滞在された後、去られた。

A meṇḍakaseṭṭhi pi kho satthu santikaṃ gantvā satthāraṃ vanditvā ekamantaṃ nisīdi. satthā pi tassa caritavasena dhammaṃ desesi. so desanāpariyosane sotāpattiphale patiṭṭhāya satthāraṃ svātanāya nimantetvā punadivase attano nivesane paṇītena khādaniyena bhojaniyena buddhapamukhaṃ bhikkhusaṅghaṃ parivisitvā eten' eva upāyena aḍḍhamāsaṃ mahādānaṃ adāsi. satthā bhaddiyanagare yathābhirantaṃ viharitvā pakkāmi.

ito paraṃ aññaṃ kathāmaggaṃ vissajjetvā visākhāya upapattikathā va kathetabbā.

メンダカ長者も尊師のもとに行き、尊師に礼拝し、一方に坐った。尊師も彼の性行に合わせて、法を説示した。彼は説法が終わった時に預流果に達し、尊師を翌日の食事に招き、あくる日、自身の家において硬軟の美食をもって、仏陀を上首とする比丘サンガに給仕し、そのようにして半月にわたって大布施を施した。尊師はバッディヤ市において、心のおもむくまま滞在された後、去られた。

ここより、他の物語の筋道をはぶいて、ヴィサーカーの誕生物語だけを語ろう。

［4］パセーナディ王がビンビサーラ王に一人の長者を求める：*DhA.*（vol. I p.385,l.26～p.386,l.9）；*AN.-A.*（vol. I p.407,ll.19～21）

D tena kho pana samayena bimbisāro ca pasenadikosalo ca aññamaññaṃ bhaginīpatikā honti. ath' ekadivasaṃ [386] kosalarājā cintesi: “bimbisārassa vijite pañca amitabhogā vasanti, mayhaṃ vijite eko pi tādiso natthi, yannūnāhaṃ bimbisārassa santikaṃ gantvā ekaṃ mahāpuññaṃ yāceyyan” ti. so tattha gantvā raññā katapaṭisanthāro ‘kiṃ kāraṇā āgato 'sī” ti puṭṭho, ‘“tumhākaṃ vijite pañca amitabhogā mahāpuññā vasanti, tato ekaṃ gahetvā gamissāmī ti āgato 'mhi, tesu me ekaṃ dethā” ti āha. ‘mahākulāni amhehi cāletuṃ na sakkā” ti āha. ‘ahaṃ aladdhā na gamissāmī” ti āha. ‘’

その時、ビンビサーラ王とコーサラ国のパセーナディ王は互いに妹の夫であった。ある日コーサラ王は「ビンビサーラの領土には無尽の財産をもつ者が５人住んでいるが、私の領土には一人もそのような者がいない。私はビンビサーラ王のもとに行き、大功徳の人を一人求めよう」と考えた。彼はそこに行き、〔ビンビサーラ〕王に歓迎され、「どうしてあなたはやってこられたのでしょうか」と問われ、「あなたの領土には、５人の無尽の財産をもつ者と大功徳ある人が住んでいますので、その中から一人を連れて行きたいと〔考えて〕やってきました。そのような方々の中から一人を私にください」と答えた。〔ビン

ビサーラ王が〕「諸大家を私が移動させることはできません」と言うと、パセーナディ王は〕「私は得られなければ、帰りません」と言った。

A sāvatthiyaṃ kosalarājā bimbisārassa santikaṃ pesesi: “mama āṇāpavattiṭṭhāne amitabhogavindanakulaṃ nāma n' atthi, amhākaṃ ekaṃ amitabhogavindanakulaṃ pesetū” ti.

舎衛城に住むコーサラ王はビンビサーラのもとに使いを派遣して、「私の領土には、無尽の財産をもつ家族が全くおりません。私のもとに無尽の財産をもつ家族を一つ派遣してください」と〔伝えた〕。

［5］ビンビサーラ王はダナンジャヤ長者を派遣する：*DhA.*（vol. I p.386,ll.9～19）；*AN.-A.*（vol. I p.406,ll.22～25）

D rājā amaccehi saddhiṃ mantetvā “jotiya-ādīnaṃ mahākulānaṃ cālanaṃ nāma pathaviyā cālanasadisaṃ meṇḍakamahāseṭṭhissa putto dhanañjayaseṭṭhī nāma atthi, tena saddhiṃ mantetvā va paṭivacanaṃ te dassāmī” ti vatvā pakkosāpetvā, “tāta, kosalarājā ‘ekaṃ dhanaseṭṭhiṃ gahetvā va gamissāmī’ ti vadati, tvaṃ tena saddhiṃ gacchā” ti. “tumhesu pahiṇantesu gamissāmi devā” ti. “tena hi parivacchaṃ katvā gaccha tātā” ti. so attano kattabbayuttaṃ akāsi; rājāpi 'ssa mahantaṃ sakkāraṃ katvā, “imaṃ ādāya gacchathā” ti pasenadirājānaṃ uyyojesi.

〔ビンビサーラ〕王は大臣らと話し合い、「ジョーティヤなどの大家を移動させることは、大地を動かすにも等しいことなのです。メンダカ大長者には息子のダナンジャヤ長者がおります。彼と話し合ってから、あなたにお返事しましょう」と言って、〔ダナンジャヤ長者を〕召喚させ、「きみ、コーサラ王が『財産のある長者を一人連れて行きたい』と言うのです。あなたはコーサラ国王とともに行ってください」と〔言った。ダナンジャヤ長者は〕「王よ、陛下が私を遣わすならば、参りましょう」と〔言った。ビンビサーラ王は〕「きみ、そうであるならば、準備をして行ってください」と〔言った〕。ダナンジャヤは自分のなすべきことをなした。〔ビンビサーラ〕王もダナンジャヤ長者を大いに敬い、「この長者を連れて行ってください」と言って、パセーナディ王を見送った。

A rājā amaccehi saddhiṃ mantesi. amaccā “mahākulaṃ pesetuṃ na sakkā, ekaṃ pana seṭṭhiputtaṃ pesessāmā” ti. meṇḍakaseṭṭhino puttaṃ dhanañjayaseṭṭhiṃ ārocayiṃsu. rājā tesaṃ vacanaṃ sutvā taṃ pesesi.

〔ビンビサーラ〕王は大臣らと話し合った。大臣らは「大家を派遣することはできませんが、しかし、長者の息子を一人派遣しましょう」と（言って）、メンダカ大長者の息子のダナンジャヤ長者に言及した。〔ビンビサーラ〕王は大臣らの言葉を聞いて、ダナンジャヤ長者を派遣した。

［6］サーケータ市を創設：*DhA.*（vol. I p.386,l.19～p.387,l.6）；*AN.-A.*（vol. I p.406,ll.25～27）

D so taṃ ādāya sāvatthiyaṃ ekarattivāsena gacchanto ekaṃ phāsukaṭṭhānaṃ patvā

nivāsaṃ gaṇhi. atha naṃ dhanañjayaseṭṭhī pucchi: “idaṃ kassa vijitan” ti. “mayhaṃ seṭṭhī” ti. “kīva dūro ito [387] sāvatthī” ti. “sattayojanamatthake” ti. “antonagaraṃ sambādhaṃ amhākaṃ parijano mahanto, sace rocetha idh' eva vaseyyāma devā” ti. rājā “sādhū” ti sampaṭicchitvā tasmiṃ ṭhāne nagaraṃ māpetvā tassa datvā agamāsi. tasmiṃ padese sāyaṃ vasanaṭṭhānassa gahitattā nagarassa sāketaṃ t' eva nāmaṃ ahosi.

パセーナディ王はダナンジャヤを連れ、途中一泊の予定で舎衛城に向い、ある安楽な場所に至り、〔そこで〕宿泊した。その時、ダナンジャヤ長者が王に「ここは、どなたの領土でしょうか？」と問い、〔パセーナディ王は〕「長者よ、私の〔領土〕である」と〔答えた〕。〔ダナンジャヤは〕「舎衛城はここからどれほどの距離でしょうか？」と〔訊ね、パセーナディ王は〕「７ヨージャナほどである」と〔答えた〕。〔ダナンジャヤは〕「王よ、城内は込み合い、私の従者は大勢です。もし同意してくださるのなら、私はここに住みましょう」と〔言った〕。王は「よろしい」と同意し、その場所に都を築かせ、ダナンジャヤに与えてから、去った。その場所において、晩に（sāyaṃ）、居住地とされたことから、その都が「サーケータ」という名になった(1)。

（1）ここには‘sāyaṃ’と関連付ける‘Sāketa’の通俗語源解釈が見られるが、北伝には別の通俗語源解釈が見られる。マーンダートリが即位する際に、都が‘svayam āgataṃ’「自ずと到来した」ことを由来とするものである（*Divyāvadāna* ed. by Cowell, p.210）。このことから『根本有部律』（大正 24　p.052 上）では Sāketa は「自来城」と訳されている。

A atha naṃ kosalarājā sāvatthino sattayojanamatthake sāketanagare seṭṭhiṭṭhānaṃ datvā vāsesi.

その時コーサラ王は、ダナンジャヤ長者を、舎衛城から７ヨージャナの距離にあるサーケータ市に、長者の地位を与えて住まわせた。

［7］プンナヴァッダナ・クマーラが花嫁に課した条件の「５つの美点」：*DhA.*（vol. I p.387,l.6～p.388,l.5）；*AN.-A.*（vol. I p.406,ll.27～28）

D sāvatthiyam pi kho migāraseṭṭhino putto puṇṇavaḍḍhanakumāro nāma vayappatto ahosi. atha naṃ mātāpitaro vadiṃsu: “tāta, tava ruccanaṭṭhāne ekaṃ dārikaṃ upadhārehī” ti. “mayhaṃ evarūpāya jaṭāya kiccaṃ n atthī” ti. “putta mā evaṃ kari, kulaṃ nāma aputtakaṃ na tiṭṭhatī” ti. so punappuna vuccamāno “tena hi pañca kalyāṇehi samannāgataṃ dārikaṃ labhamāno tumhākaṃ vacanaṃ karissāmī” ti āha. “kāni pan' etāni pañca kalyāṇāni nāma, tātā” ti. “kesakalyāṇaṃ maṃsakalyāṇaṃ aṭṭhikalyāṇaṃ chavikalyāṇaṃ vayakalyāṇan” ti.

舎衛城においても、ミガーラ長者の息子でプンナヴァッダナ・クマーラというものが成人していた。そこで父母は彼に「息子よ、少女を一人妻に迎えなさい」と言った。〔プンナヴァッダナが〕「私にそのような束縛の義務はありません」と〔言ったので、父母は〕「息子よ、そのようにふるまってはならない。家というものは子がなくては立ち行かないのだ」と〔言った〕。彼は繰り返し〔父母に〕言われて、「そういうことでしたら、私が

５つの美点を具えた少女を得る〔場合に限り〕、お父さんとお母さんのおっしゃるとおりにしましょう」と言った。〔父母は〕「息子よ、その５つの美点とはいったい何だね？」と〔訊ねると、プンナヴァッダナは〕「髪が美しいこと、肉が美しいこと、骨が美しいこと、肌が美しいこと、若々しいこと〔の５つです〕」と〔答えた〕。

D mahāpuññāya hi itthiyā kesā morakalāpasadisā hutvā muñcitvā vissaṭṭhā nivāsanantaṃ(1) paharitvā nivattitvā uddhaggā tiṭṭhanti, idaṃ kesakalyāṇaṃ nāma; dantāvaraṇaṃ bimbaphalasadisaṃ vaṇṇasampannaṃ samaṃ suphassitaṃ hoti, idaṃ maṃsakalyāṇaṃ nāma; dantā sukkā samā avivarā ussāpetvā ṭhapitavajirapanti viya samacchinnaṃ saṅkhapattaṃ viya ca sobhanti, idaṃ aṭṭhikalyāṇaṃ nāma; kāliyā vaṇṇakādīhi avilitto [388] eva chavivaṇṇo siniddho nīluppaladāmasadiso hoti, odātāya ca(2) kaṇikārapupphadāmasadiso hoti, idaṃ chavikalyāṇaṃ nāma; dasakkhattuṃ vijātā pi kho pana sakiṃ vijātā viya avigatayobbanā yeva hoti, idaṃ vayakalyāṇaṃ nāma hoti.

（1）nivāsanantaṃ. 底本の nivāsantaṃ を異読により訂正する。

（2）ビルマ版にもとづいて ca を挿入する。

なんとなれば、大功徳ある女性の髪の毛は、まるで孔雀の尾のようで、ほどいて垂らせば裳裾を打ってから跳ね返り、毛先が上にカールしたままになる。これが「髪の美しいこと」である。くちびるが、ビンバ樹の果実のような容色を具え、傾かず、触り心地がよい。これが「肉が美しいこと」である。歯が白く、等しく生え揃って隙間がなく、上に掲げて並べたダイヤモンドの列、均等に切られた真珠母のように美しい。これが「骨が美しいこと」である。色黒の女性では、塗油などを塗らずとも (1) 肌の色が瑞々しいこと青蓮華の花環のようであり、そして色白の女性では、〔肌の色が〕カニカーラ花の花環のように〔白い〕。これが「肌が美しいこと」である。10 回もの出産を経験した女でも１回だけ出産を経験した女のように若さが消えない。これが「若々しいこと」である。

（1）kāḷiyā-vaṇṇakādīhi avilitto eva と読めば「白檀や塗油などを塗らずとも」となる。英訳者（Eugene Watson Burlingame）もそのように読んでいるし、Margaret Cone, *A Dictionary of Pāli*（PTS, 2001）の‘kāḷiya’の項でも同様に理解されている。しかしこのように解すると、つづく‘odātāya’（odāta‘白い’の女性形、属格）が合理的に理解できなくなる。よって訳文のように解した。

A sāvatthiyañ ca migāraseṭṭhino putto puṇṇavaḍḍhanakumāro nāma vayappatto hoti.

舎衛城において、ミガーラ長者のプンナヴァッダナ・クマーラという息子が成人した (1)。

（1）*AN.-A.*には、プンナヴァッダナが花嫁に課した条件の「５つの美点」の内容に相当する文章は見られない。

［8］ミガーラ長者が５つの美点を具える少女を求めて８人のバラモンを派遣する：*DhA.*（vol. I p.388,ll.5～12）；*AN.-A.*（vol. I p.407,ll.1～3）

D ath' assa mātāpitaro aṭṭhuttarasatabrāhmaṇe nimantetvā bhojetvā, “pañcakalyāṇa-samannāgatā itthiyo nāma hontī” ti pucchiṃsu. “āma, hontī” ti. “tena hi evarūpaṃ

dārikaṃ pariyesituṃ aṭṭha janā gacchantū" ti bahudhanaṃ datvā "āgatakāle vo kātabbaṃ jānissāma, gacchatha, evarūpaṃ dārikaṃ pariyesatha diṭṭhakāle ca imaṃ pilandheyyāthā" ti satasahassagghaṇikaṃ suvaṇṇamālaṃ datvā uyyojesuṃ.

そこで、プンナヴァッダナの父母は108人のバラモンを招待し、食事をふるまってから「５つの美点を具えた女性なんているものですか？」と訊ねた。〔バラモンらが〕「はい、います」と〔答えると、父母は〕「そういうことでしたら、８人の方にそのような女性を求めに行っていただきたい」と〔言って〕、大金を与えて「あなたたちが戻ってきた時にあなた方になすべきことは分かっています（それなりのお礼をします）。行ってください。そのような少女を探してください。そして、見つかった時に、その少女をこれで飾ってあげてください」と、10万金にも相当する黄金の花輪を託して派遣した。

A ath' assa pitā "putto me vayappatto, gharāvāsen' assa ābandhanasamayo" ti ñatvā "amhākaṃ samānajātike kule dārikaṃ pariyesathā" ti kāraṇākāraṇakusale purise pesesi.

その時、プンナヴァッダナの父親が「私の息子は成人した。家に住むことによって息子を結びつける時だ」と知り、「我々と同じ身分の家系から少女を探しなさい」と〔言って〕、なすべきこととなすべからざることをよくわきまえた人々を派遣した。

［9］５つの美点を具えるヴィサーカーの発見：*DhA.*（vol. I p.388,l.12～p.391,l.16）；*AN.-A.*（vol. I p.407,l.4～p.408,l.19）

D te mahantamahantāni nagarāni gantvā pariyesamānā pañcakalyāṇasamannāgataṃ dārikaṃ adisvā nivattitvā āgacchantā vivaṭanakkhattadivase sāketaṃ anuppattā, "ajja amhākaṃ kammaṃ nipphajjissatī" ti cintayiṃsu. tasmiṃ pana nagare anusaṃvaccharaṃ vivaṭanakkhattaṃ nāma hoti, tadā bahi anikkhamanakulāni pi parivārena saddhiṃ gehā nikkhamitvā appaṭicchannena sarīrena padasā va nadītīraṃ gacchanti. tasmiṃ divase khattiyamahāsālādīnaṃ puttā pi "attano samānajātikaṃ manāpaṃ kuladārikaṃ disvā, mālāguḷena parikkhipissāmā" ti taṃ taṃ maggaṃ nissāya tiṭṭhanti.

バラモンたちはありとあらゆる大都市に行って探したが、５つの美点を具えた少女を見つけられずに戻り、帰りの途中、「露星祭」（vivaṭanakkhatta）(1) の日に、サーケータ市に着き、「今日、私たちの仕事が完了するだろう」と考えた。その都では、毎年、露星祭があり、その際には、普段外出しない多くの家族さえも、従者ともども家から出て、身を隠さずに、徒歩で河岸に赴くことになっていた。その日、大家のクシャトリヤなどの息子も「自身と同じ生まれのかわいい良家の女の子を見つけたら花束をなげかけようと、そこかしこの道端に立つことになっていた。

（1）言及が他所にないため詳細は不明。'vivaṭa'（露な）＋'nakkhatta'（星宿、星）

D te pi brāhmaṇā nadītīre ekaṃ sālaṃ pavisitvā aṭṭhaṃsu. tasmiṃ khaṇe visākhā paṇṇarasasoḷasavassuddesikā hutvā sabbābharaṇapaṭimaṇḍitā pañcahi kumārisatehi parivutā nadiṃ gantvā "nahāyissāmī" ti taṃ padesaṃ pattā. atha kho [389] megho

uṭṭhahitvā pāvassi. pañcasatā kumāriyo vegena gantvā sālaṃ pavisiṃsu.

そのバラモンたちもまた、河岸にある小屋に入っていた。その時、ヴィサーカーは15,6歳で、ありとあらゆる装飾品で飾られ、500人の少女（kumārī）に囲まれて河に行き、「沐浴しましょう」と、その〔バラモンらがいる〕場所に至った。その時雲がわき上がり、雨を降らせた。500人の少女は急いで行って（走って）小屋に入った。

D brāhmaṇā olokentā(1) tāsu ekam pi pañcakalyāṇasamannāgataṃ na passiṃsu. visākhā pakatigamanen' eva sālaṃ pāvisi, vatthābharaṇāni temiṃsu. brāhmaṇā tassā cattāri kalyāṇāni disvā dante passitukāmā, “alasajātikā amhākaṃ dhītā, etissā sāmiko kañjikamattam pi na labhissati maññe” ti aññamaññaṃ kathayiṃsu. atha ne visākhā āha: “kiṃ vadetha tumhe” ti. “taṃ kathema, ammā” ti. madhuro kira tassā saddo kaṃsatālasaro viya niccharati. atha ne puna madhurasaddena “kiṃkāraṇā kathethā” ti pucchi.

（1）olokentā. 底本の olokento を異読によって訂正する。

それを見ていたバラモンらは、その少女らの中に５つの美点を具えた少女をひとりも見つけられなかった。ヴィサーカーは自然な足取りで小屋に入ったので、〔彼女の〕衣服と装飾品は濡れてしまった。バラモンらは、彼女に４つの美点を見出して、歯を見たいと思い、「我らが娘は生まれつき怠惰で、この娘の夫はきっと酸っぱい粥すら得られないだろう」と互いに語り合った。その時、ヴィサーカーは彼らに「あなた方は何を話しているのですか？」と言った。〔バラモンらは〕「娘さん、あなたのことを話しているのですよ」と〔答えた〕――伝え聞くところでは彼女の声は甘く、まるでシンバルの音ように響いたそうだ――それからヴィサーカーは、また甘い声で「何故〔そのように〕言うのですか？」と訊ねた。

D “tava parivāritthiyo vatthālaṅkāre atemetvā vegena sālaṃ paviṭṭhā, tuyhaṃ ettakaṃ ṭhānaṃ vegena gamanamattam pi n atthi, vatthābharaṇe temetvā āgatāsī ti ta'mā kathemā” ti. “tātā, mā evaṃ vadetha, ahaṃ etāhi balavatarā. kāraṇaṃ pana sallakkhetvā javena n āgata 'mhī” ti. “kiṃ, ammā” ti. “tātā, cattāro janā javamānā na sobhanti, aparam pi kāraṇaṃ atthī” ti. “katame cattāro janā javamānā na sobhanti ammā” ti.

〔バラモンらが〕「あなたの侍女たちは衣服や装飾品を濡らさずに急いで小屋に入ったのに、あなたはほんの少しも全く急ぐことなく、衣服と装飾品を濡らしてやってきた、とあなたのことを語り合っているのですよ、娘さん」と〔言うと、ヴィサーカーは〕「みなさん、そんなふうに言わないでください。私はこの少女たちより力もちですが、理由を考えて、私は素早く来なかったのです」と〔言った〕。〔バラモンたちが〕「娘さん、理由とは何ですか？」と〔訊ねると、ヴィサーカーは〕「みなさん、４種の人は走ると見栄えしませんし、他にも理由があります」と〔言った〕。〔バラモンたちは〕「娘さん、どのような４種の人が走ると見栄えしないのですか」と〔訊ねた〕。

D tātā, abhisitto rājā tāva sabbābharaṇapaṭimaṇḍito kacchaṃ bandhitvā rājaṅgaṇe javamāno na sobhati ‘kiṃ ayaṃ mahārājā gahapatiko viya dhāvatī’ ti aññadatthu

garahaṃ labhati, saṇikaṃ gacchanto va sobhati. rañño maṅgalahatthī pi alaṅkato javamāno na sobhati(1), vāraṇalīḷhāya gacchanto va sobhati; pabbajito javamāno na sobhati “kiṃ ayaṃ samaṇo gihī viya dhāvatī” ti kevalaṃ [390] garaham eva labhati samitagamanena pana sobhati; itthī javamānā na sobhati ‘kiṃ esā itthī puriso viya dhāvatī’ ti garahitabbā va hoti; ime cattāro javamānā na sobhantī” ti.

（1）底本は sobhatī ti とするも異読によって‘ti’をとる。

〔ヴィサーカーは答えた〕。「みなさん、灌頂された王がありとあらゆる装身具で飾られながら、帯を締めて王宮を走るのは見栄えしません。『この大王はどうして家主のように走るのか』と必ずや謗りを受けます。ゆっくり進むのが見栄えするのです。王の吉祥の象も飾られながら走るのは見栄えしません。その象は象の優美さのままに進むのが見栄えします。出家者は走ると見栄えしません。『この沙門はどうして在家者のように走るのか』と、ただ謗りだけを受けます。いつも同じ歩調で進むのが見栄えします。女性は走ると見栄えしません。『この女はどうして男のように走るのか』と非難されるにちがいありません。これらの４種の人は走ると見栄えしないのです」と。

D “katamaṃ pana aparakāraṇaṃ(1), ammā” ti? “tātā, mātāpitaro nāma dhītaraṃ aṅgapaccaṅgāni saṇṭhāpetvā posenti. mayam hi vikkiṇiyabhaṇḍaṃ nāma, amhe parakulaṃ pesanatthāya posenti, sace javamānānaṃ nivatthadussākaṇṇe vā akkamitvā(2) bhūmiyaṃ vā pakkhalitvā patitakāle hattho vā pādo vā bhijjeyya kulass' eva bhārā bhaveyyāma, pasādhanabhaṇḍaṃ pana temetvā sukkhissati. imaṃ kāraṇaṃ sallakkhetvā na dhāvit' amhi tātā” ti.

（1）底本は‘aparakaraṇaṃ’とするが訂正する。誤植であろう。

（2）nivatthadussākaṇṇe vā akkamitvā. 底本は dasākaṇṇe vā bhūmiyaṃ vā とするが異読により訂正する。

〔バラモンたちが〕「娘さん、また他の理由というのは何ですか？」と〔訊ねると、ヴィサーカーは答えた〕。「みなさん、父母というのは娘を、その肢節が害われないように、育てます。なぜなら私たち〔娘というもの〕は〔父母によって〕売りに出される商品であって、父母は私たちを他の家に嫁がせるために育てています。もし私たちが走っているうちに、裳裾を踏むか、地面でつまずくかして、倒れた時に手あるいは足が折れたりすれば、私は家のやっかいものになるでしょう。私の装身具なんかは濡れても乾くでしょう。みなさん、私はこの理由を考えて走らなかったのです」と。

D brāhmaṇā tassā(1) kathanakāle dantasampattiṃ disvā “evarūpā no sampatti na diṭṭhapubbā” ti tassā sādhukāraṃ datvā, “amma, tuyham ev' esā anucchavikā” ti vatvā taṃ suvaṇṇamālaṃ pilandhayiṃsu. atha ne pucchi: “kataranagarato āgat' attha tātā” ti. “sāvatthito, ammā” ti. “seṭṭhikulaṃ kataraṃnāmā” ti. “migāraseṭṭhi nāma, ammā” ti. “ayyaputto ko nāmo” ti. “puṇṇavaḍḍhanakumāro nāma, ammā” ti. sā “samānajātikaṃ no kulaṃ” ti adhivāsetvā pitu sāsanaṃ pahiṇi: “amhākaṃ rathaṃ [391] pesetū” ti.

（1）底本の tassā の後の kathaṃ をビルマ版によって除く。

ヴィサーカーが語っている時に、バラモンらは歯が条件を満たしているのを見て、「こ

のように条件を完全に満たしているのを私たちは見たことがない」と〔言って〕、彼女を賞賛し、「娘さん、これはあなたにこそ相応しい」と言って、その彼女に金の花環を飾り付けた。その時〔ヴィサーカーは〕バラモンらに「みなさん、あなたたちはどこの都から来られたのですか」と訊ねた。〔バラモンらが〕「舎衛城という都からですよ、娘さん」と〔答えると、ヴィサーカーは〕「長者の家は何という名ですか？」と訊ねた。〔バラモンらが〕「ミガーラ長者という方です。娘さん」と〔答えると、ヴィサーカーは「高貴な息子さんは何というお名前ですか？」と〔訊ね、バラモンらは〕「プンナヴァッダナ・クマーラという名です。娘さん」と答えた。彼女は「私たちと同じ生まれの家系だ」と〔求婚に〕同意し、父に「私のところに車を来させて下さい」と伝言を送った。

D kiñcā pi hi sā āgamanakāle padasā āgatā, mālāya pana pilandhanakālato paṭṭhāya tathā gantuṃ na labhati(1), issaradārikā rathādīhi gacchanti, itarā pakatiyānakaṃ abhiruyhanti, chattaṃ vā tālapaṇṇaṃ vā upari karonti, tasmiṃ asati nivatthasāṭakassa dasantaṃ ukkhipitvā aṃse khipanti eva.

tassā pana pitā pañca rathasatāni pesesi, sā saparivārā rathaṃ āruyha gatā, brāhmaṇāpi ekato gamiṃsu.

（1）labhati. 底本の labhanti を異読によって訂正する。

彼女は来る時には徒歩で来たとはいえ、花環で飾られた時から以後はそのように行くことはできない。主たる娘は〔覆いのある〕車（ratha）などで行き、そうでない娘は普通の〔覆いのない〕乗り物（yānaka）に乗って、傘かターラ樹の葉を上にかざし、それがない時には、着ている衣服の裾を上げて肩にかける。

ヴィサーカーの父は 500 台の車を送ってよこした。彼女は従者とともに車に乗って行き、バラモンらもまた一緒に行った。

D atha ne seṭṭhī pucchi: “kuto āgat' atthā” ti. “sāvatthito mahāseṭṭhī” ti. “seṭṭhī kataro nāmā” ti. “migāraseṭṭhī nāmā” ti. “putto ko nāmo” ti. “puṇṇavaḍḍhanakumāro nāmā” ti. “dhanaṃ kittakan” ti. “cattālīsa koṭiyo mahāseṭṭhī” ti. “dhanaṃ tāva amhākaṃ dhanaṃ upādāya kākaṇikamattaṃ, dārikāya pana ārakkhamattāya laddhakālato paṭṭhāya kiṃ aññena kāraṇenā” ti adhivāsesi. so tesaṃ sakkāraṃ katvā ekāhadvīhaṃ vasāpetvā uyyojesi.

その時、長者は〔バラモンらに〕「あなたたちはどこから来ましたか？」と訊ねた。〔バラモンらが〕「大長者よ、舎衛城からです」と〔答えると、ダナンジャヤは〕「どちらの長者なのですか？」と〔訊き、バラモンらは〕「ミガーラ長者という方です」と〔答えた。ダナンジャヤが〕「息子は何という名ですか？〕と〔訊くと、バラモンらは〕「プンナヴァッダナ・クマーラという名です」と〔答えた。ダナンジャヤが〕「財産はどれくらいですか？」と〔訊くと、バラモンらは〕「大長者よ、40 億金です」と〔答えた。ダナンジャヤは〕「それぐらいの財産は我が方の財産に比べれば取るに足らないけれども、娘の保護だけでも得られたからには、他に何の懸念があろうか」と〔考えて、この縁組に〕同意した。ダナンジャヤはバラモンらを敬い、１泊か２泊させて見送った。

A te sāvatthiyaṃ attano rucitaṃ dārikaṃ adisvā sāketaṃ agamaṃsu. taṃ divasañ ca

visākhā attano samānavayehi pañcahi kumārikāsatehi parivāritā nakkhattakīḷanatthāya ekaṃ mahāvāpiṃ agamāsi. te pi purisā antonagare caritvā attano rucitaṃ dārikaṃ adisvā bahinagaradvāre aṭṭhaṃsu. tasmiñ ca pana samaye devo vassituṃ ārabhi. atha tā visākhāya saddhiṃ nikkhantadārikā temanabhayena vegena vegena sālaṃ pavisiṃsu. te purisā tāsaṃ pi artave yathārucitaṃ dārikaṃ na passiṃsu. tāsaṃ sabbapacchato visākhā devaṃ vassantam pi agaṇetvā aturitagamanena temamānā va sālaṃ pāvisi. te purisā naṃ disvā va cintayiṃsu: rūpavatī tāva kaññā etaparamā bhaveyya(1), “rūpaṃ pan' etaṃ ekaccāya karakapakkaṃ(2) viya hoti, kathā samuṭṭhāpetvā kathentā jānissāma madhuravacanā vā no vā” ti.

(1) rūpavatī tāva kaññā etaparamā bhaveyya. 底本は rūpavatī nāma aññā pi, etaparamā va bhaveyya とするがビルマ版に従った。

(2) karakapakkaṃ. 異読に kārakapakkaṃ と kāritappattaṃ とがある。

彼ら〔ミガーラによって派遣された下男ら〕は、舎衛城では自身にとって好ましい少女を見つけられず、サーケータに行った。その日、ヴィサーカーは自身と同じ年齢の500人の少女に囲まれ、お祭りを楽しむために、ある大きな池に行った。その〔ミガーラによって派遣された〕下男らも都の中を歩いていて、自身にとって好ましい少女を見つけられず、都の外門に立っていた。その時、雨が降り始めた。その時、ヴィサーカーとともに外出したその少女たちは、濡れることを恐れて、とても急いで小屋に入った。彼女ら全員の後からヴィサーカーが、雨が降っていても顧慮せず、急がない足取りで、濡れながら小屋に入った。その〔ミガーラによって派遣された〕下男らは、彼女を見るや、考えた。「これほど美しい少女はこれが最上であろう。この容姿は…… (1) のようだ。我々は会話を始めて、会話しながら、〔彼女が〕甘く語るか、そうではないかを知ろう」と。

(1) 意味不明。訳出を断念する。

A tato naṃ āhaṃsu: ativiya pariṇatavayā itthivaṇṇā viya 'si, ammā ti. “kiṃ disvā kathetha tātā” ti? “aññā tāya saddhiṃ kīḷanakumāriyo temanabhayena vegena āgantvā sālaṃ paviṭṭhā, tvaṃ pana mahallikā viya padavāraṃ atikkamma nāgacchasi, sāṭakassa temanabhāvam pi na gaṇesi. sace taṃ hatthi vā asso vā anubandheyya, kiṃ evam evaṃ kareyyāsī” ti? “tātā, sāṭakā nāma na dullabhā, sulabhā mayhaṃ kule sāṭakā. vayappattā mātugāmā pana paṇiyabhaṇḍasadisā, hatthe vā pāde vā bhagge aṅgavikalaṃ mātugāmaṃ jigucchantā nuṭṭhubhitvā gacchanti, tasmā saṇikaṃ āgat 'mhī” ti.

それから〔彼らは〕彼女に「娘さん、あなたはたいへんお年をめした女性のようですね」と言った。〔ヴィサーカーは〕「あなたたちは何を見て言うのですか？」と〔返した〕。「あなたと一緒に遊んでいた他の少女は、濡れることを恐れて、急いで小屋に入ってきたのに、あなたは老婦人のように、歩調をかえて来ることをしませんでした。衣服が濡れる恐れも顧慮しない〔様子です〕。もし、あなたを象や馬が追ってきても、そのようにしますか」と〔訊ねると、ヴィサーカーは〕「みなさん、衣服なんて得難いものではありません。私の家では衣服は簡単に得られます。しかし、成人した女性は、売りに出される商品

と同様です。手あるいは足が折れてしまえば、人は肢体の欠けた女性を嫌悪し、唾を吐いて去ってしまいます。ですから、私はゆっくり〔歩いて〕来たのです」と〔言った〕。

A te cintayiṃsu: imāya sadisā imasmiṃ jambudīpe itthi nāma n' atthi, yādisā rūpena, piyakathāya pi tādisā va, kāraṇākāraṇaṃ ñatvā kathetī ti, tassā upari mālāgulaṃ khipiṃsu. atha visākhā, cintesi: ahaṃ pubbe apariggahitā, idāni pana pariggahita' mhī ti vinītenākārena bhūmiyaṃ nisīdi. atha naṃ tatth' eva sāṇiyā parikkhipiṃsu. sā paṭicchannabhāvaṃ ñatvā dāsigaṇaparivutā gehaṃ agamāsi. te pi migāraseṭṭhino purisā tāya saddhiṃ yeva dhanañjayaseṭṭhino santikaṃ agamaṃsu.

彼らは「これと同様の女性なんてこの閻浮提に決していない。容姿で卓越しているのと同様に、かわいらしい語り口でも卓越して、すべきこととすべきではないことをよくわきまえて語る」と考えて、彼女の上に花環を投げた。その時、ヴィサーカーは「私はいままで捕まらなかったが、今や、私はとうとう捕まってしまった」と考え、教えられている仕方で地面に坐った。すると〔彼らが〕そこで彼女の周りに幕をはりめぐらした。彼女は覆われたことを知って、下女の群に囲まれつつ家に行った。彼らミガーラに派遣された下男らも彼女とともにダナンジャヤ長者のもとに行った。

A “kataragāmavāsino tātā tumhe” ti ca pucchitā “sāvatthinagare migāraseṭṭhino puris' amhā” ti vatvā “mayaṃ amhākaṃ seṭṭhinā ‘tumhākaṃ gehe vayappattā dārikā atthī’ ti sutvā pesitā” ti. “sādhu tātā, tumhākaṃ seṭṭhi kiñcāpi bhogena amhehi asadiso, jātiyā pana sadiso. sabbākārasampanno nāma dullabho. gacchatha tumhe seṭṭhissa amhehi sampaṭicchitabhāvaṃ ārocethā” ti.

〔ダナンジャヤに〕「きみたちは何処の村の方ですか」と問われて、「舎衛城のミガーラ長者から〔派遣された〕下男です」と言って、〔さらに〕「私たちの長者があなたの家に成人した少女がいると聞いて、私たちを派遣したのです」と〔つづけた〕。〔ダナンジャヤは〕「わかりました。あなた方の長者がたとい財産の点で私に匹敵しなくても、生まれは同じです。すべてがそろうというのは得がたいことですから。さあ、あなた方は長者に、私が承諾したとお伝えください」と〔言った〕。

［10］ヴィサーカーを嫁として迎えるミガーラ家：*DhA.*（vol. I p.391,l.16〜p.394,l.2）；*AN.-A.*（vol. I p.408,l.19〜p.409,l.30）

D te sāvatthiṃ gantvā migāraseṭṭhissa “laddhā no dārikā” ti ārocayiṃsu. “kassa dhītā” ti. “dhanañjayaseṭṭhino” ti. so “mahākulassa dārikā me laddhā, khippam eva naṃ ānetuṃ vaṭṭatī” ti tattha gamanatthaṃ rañño ārocesi. rājā “mahākulaṃ etaṃ mayā bimbisārassa santikā ānetvā sākete nivesitaṃ, [392] tassa sammānaṃ kātuṃ vaṭṭatī” ti “aham pi āgamissāmī” ti āha. so “sādhu, devā” ti vatvā dhanañjayaseṭṭhino sāsanaṃ pesesi: “mayi āgacchante rājā pi āgamissati. mahantaṃ rājabalaṃ. ettakassa janassa kattabbayuttaṃ kātuṃ sakkhissasi na sakkhissasī” ti. itaro “sace pi dasa rājāno āgacchanti, āgacchantū” ti paṭisāsanaṃ pesesi.

バラモンたちは舎衛城に行き、ミガーラ長者に「私たちは少女を得ました」と告げた。

「どなたの娘か？」と〔ミガーラ長者に訊ねられ〕、「ダナンジャヤ長者の〔娘です〕」と〔バラモンらは答えた〕。ミガーラ長者は「私は大家の娘を得た。すぐにも、彼女を連れて来るのがよい」と〔考えて〕、そこに赴く旨を王に告げた。〔パセーナディ〕王は、「その大家は私がビンビサーラ王のもとから連れて来て、サーケータ市に住まわせた大家であるから、彼に敬意を表すべきであろう」と〔考え〕、「私も行こう」と言った。ミガーラ長者は「陛下、すばらしいことです」と言って、ダナンジャヤ長者に対して「私がそちらに参ります時に、王もご一緒されます。王の軍は大軍です。これだけの大勢の人々を相応しくもてなすことができますか、それともできませんか？」と伝言を送った。ダナンジャヤは「たとい 10 人の王が来るとしても、どうぞいらしてください」と返事を送った。

D migāraseṭṭhī nāma tāva mahante nagare gehagopakamattaṃ ṭhapetvā sesajanaṃ ādāya gantvā addhayojanamatte ṭhāne ṭhatvā “āgat' amhā” ti sāsanaṃ pahiṇi. dhanañjayaseṭṭhī bahuṃ paṇṇākāraṃ pesetvā dhītarā saddhiṃ mantesi: “amma, sasuro kira te kosalarañña saddhiṃ āgato, tassa kataragehaṃ paṭijaggitabbaṃ, rañño kataraṃ uparājādīnaṃ katarānī” ti.

ミガーラ長者は、まず大都（舎衛城）には家の番人だけを残して、残り全員を連れて行き、〔サーケータから〕半ヨージャナ程度の場所に止まって、「私たちはやってきました」と伝言を送った。ダナンジャヤ長者は〔ミガーラに〕手紙を添えた多くの贈り物を送ってから、娘と相談した。「娘よ、お前の舅〔となる人〕がコーサラ王とともにやって来られたそうだ。舅のためにいずれの家を用意すべきか、王にはいずれの家を、副王などの人々にはいずれの家々を用意すべきだろうか」と。

D paṇḍitā seṭṭhidhītā vajiraggatikhiṇañāṇā kappasatasahassaṃ patthitapatthanā abhinīhārasampannā “sasurassa me asukaṃ gehaṃ paṭijaggatha rañño asukaṃ uparājādīnaṃ asukānī” ti saṃvidahitvā dāsakammakare pakkosāpetvā “ettakā rañño kattabbakiccaṃ karotha, ettakā uparājādīnaṃ, hatthiassādayo pi tumhe eva paṭijaggatha, assabandhādayo pi āgantvā maṅgalacchaṇaṃ anubhavissantī” ti saṃvidahi.

kiṃkāraṇā? ‘mayaṃ visākhāya maṅgalaṭṭhānaṃ gantvā na kiñci labhimha, assarakkhaṇādīni karontā vicarimhā’ ti keci vattuṃ mā labhiṃsū ti.

taṃ divasam eva visākhāya pitā pañcasate suvaṇṇakāre pakkosāpetvā “dhītu me mahālatāpasādhanaṃ [393] nāma karothā” ti rattasuvaṇṇassa nikkhasahassaṃ, tadanurūpāni ca rajata-maṇi-muttā-pavāḷa-vajirādīni dāpesi.

長者の娘は賢く、ダイヤモンドの先端のように鋭い智慧を有しており、１千万劫にわたって望むところを追求してきており、決意を具えていたので「私の舅にはこの家を、王にはこの家を、副王たちにはこれこれの家々を（用意してください）」といって整えて、奴隷と下僕を呼ばせて「これこれの人数で王に仕えなさい、これこれの人数で副王らに仕えなさい。象や馬などもあなた方で世話しなさい。〔そうすれば先方の〕馬丁なども、やってきて祝祭の宴会に参加できるでしょう」と〔万端を〕整えた。

何故〔象や馬の世話までしなければいけないの〕か？。「私たちはヴィサーカーの祝祭

の場に行ったのに、何も得られなかった。馬の世話などをして歩き回っていたからだ」などと誰にも言わせないためである。

ちょうどその日に、ヴィサーカーの父は 500 人の金属細工職人を呼ばせて、「私の娘のために大蔓草型装身具を作って下さい」と〔言って〕、千金に価する赤金と、それにそぐう銀、宝珠、真珠、珊瑚、ダイヤなどを与えさせた。

D rājā katipāhaṃ vasitvā va dhanañjayaseṭṭhissa sāsanaṃ pahiṇi: “na sakkā seṭṭhinā amhākaṃ bharaṇaṃ posanaṃ kātuṃ, dārikāya gamanakālaṃ jānātū” ti. so pi rañño sāsanaṃ pesesi: “idāni vassakālo āgato, tena sakkā catumāsaṃ vicarituṃ, tumhākaṃ balakāyassa yaṃ yaṃ laddhuṃ vaṭṭati, sabbaṃ taṃ mama bhāro, mayā pesitakāle devo gamissatī” ti. tato paṭṭhāya sāketanagaraṃ niccanakkhattaṃ viya ahosi. rājānaṃ ādiṃ katvā sabbesaṃ mālāgandhavatthādīni paṭiyattān' eva honti. te te janā cintayiṃsu: “seṭṭhī amhākaṃ eva sakkāraṃ karotī” ti. evaṃ tayo māsā atikkantā pasādhanaṃ pana na tāva niṭṭhāti.

パセーナディ王は数日間〔サーケータに〕住してから、ダナンジャヤ長者に「〔ダナンジャヤ〕長者さんは〔もはや〕私たちを支え、食を給することはできないでしょう。あなたは娘さんの出発の時をお知り下さい」と伝言を送った。ダナンジャヤ長者もパセーナディ王に「今はもう雨期が来ましたので、４ヶ月の間は移動することができないでしょう。陛下の軍隊に必要なものは何でも私がご負担しましょう。私がご連絡を差し上げる時に、陛下は出発なさって下さい」と伝言を送った。それ以後、サーケータの都は毎日がお祭りのようであった。王をはじめとして、すべての人々に花環、香、衣服などがいつも用意されていた。人々のひとりひとりが「長者は私だけをもてなしてくれている」と考えた。このようにして３ヶ月が過ぎたが、装身具はまだ完成しなかった。

D kammantādhiṭṭhāyikā āgantvā seṭṭhino ārocesuṃ: “aññaṃ asantaṃ nāma natthi, balakāyassa pana bhattapacanadārūni nappahontī” ti. “gacchatha, tātā, imasmiṃ nagare parijiṇṇahatthisālādayo ca jiṇṇakāni ca gehāni gahetvā pacathā” ti. evaṃ pacantānam pi addhamāso atikkanto; tato puna pi “dārūni natthī” ti ārocayiṃsu. “imasmiṃ kāle na sakkā dārūni laddhuṃ, dussakoṭṭhāgārāni vivaritvā thūlasāṭakehi vaṭṭiyo katvā [394] telacāṭīsu temetvā bhattaṃ pacathā” ti. te addhamāsaṃ tathā akaṃsu.

〔接待〕業務の責任者らがやって来て、長者に「他には何も不足していませんが、軍隊のための炊事用の薪が十分ではありません」と告げた。ダナンジャヤ長者は「君たち、さあ、この都中の老朽した象小屋や廃屋を得て〔それを打ち壊して木材を得て〕、炊事しなさい」と〔命じた〕。このように炊事していたけれども、半月が過ぎると、それから〔彼らは〕また「薪がありません」と告げた。〔ダナンジャヤ長者は〕「今の時期は薪を手に入れることができない。衣服の倉庫を開けて、粗末な衣を灯心として油の容器に浸して〔火をつけて〕炊事をしなさい」と〔命じた〕。彼らは半月の間そのとおりにした。

A te tassa vacanaṃ sutvā sāvatthiṃ gantvā migāraseṭṭhissa tuṭṭhiñca vaḍḍhiñca pavedetvā “laddhā no sāmi sākete dhanañjayaseṭṭhissa gehe dārikā” ti āhaṃsu. taṃ

sutvā migāraseṭṭhi “mahākulagehe kira no dārikā laddhā” ti tuṭṭhamānaso hutvā tāva-d-eva dhanañjayaseṭṭhissa sāsanaṃ pahiṇi “idān' eva dārikaṃ ānayissāma, kattabbakiccaṃ karontū” ti. so pi 'ssa paṭisāsanaṃ pesesi: “nayidaṃ amhākaṃ bhāriyaṃ, seṭṭhi pana attano kattabbakiccaṃ karotū” ti.

彼ら（ミガーラによって派遣された下男ら）はダナンジャヤの言葉を聞いて、舎衛城に行き、ミガーラ長者に満足と繁栄とを報告し、「ご主人様、私たちはサーケータ市のダナンジャヤ長者の家で少女を得ました」と言った。それを聞いてミガーラ長者は「私たちは大家の家から少女を得たそうだ」と、満ち足りた心になって、すぐにダナンジャヤ長者に「今すぐに娘さんをお迎えに参ります。するべきことをしていただきたい」と伝言を送った。ダナンジャヤもミガーラに「そんなことは私にとって大変なことではありません。しかし〔ミガーラ〕長者よ、あなたは自身のなすべきことをなさってください」と返事を送った。

A so kosalarañño santikaṃ gantvā ārocesi: deva ekā me maṅgalakiriyā atthi, dāsassa te puṇṇavaḍḍhanassa dhanancayaseṭṭhino dhītaraṃ visākhaṃ nāma dārikaṃ ānessāmi, sāketagamanam me anujānāthāti. “sādhu, mahāseṭṭhi, kiṃ pana amhehi pi āgantabban” ti? “deva tumhādisānaṃ gamanaṃ kathaṃ laddhuṃ sakkā” ti? rājā mahākulaputtassa saṃgahaṃ kātukāmo “hotu seṭṭhi, āgamissāmī” ti sampaṭicchitvā migāraseṭṭhinā saddhiṃ sāketanagaraṃ agamāsi. dhanañjayaseṭṭhi “migāraseṭṭhi kira kosalarājānaṃ gahetvā āgato” ti sutvā paccuggamanaṃ katvā rājānaṃ gahetvā attano nivesanaṃ agamāsi. tāva-d-eva rañño pasenadikosalassa ca rājabalassa ca migāraseṭṭhino ca vasanaṭṭhānañ c' eva gandhavatthādīni ca paṭiyādesi. “idaṃ imassa laddhuṃ vaṭṭati, idaṃ imassā” ti sabbaṃ attanā va jānāti. te te janā cintayiṃsu: seṭṭhi amhākam eva sakkāraṃ karotī” ti.

ミガーラ長者はコーサラ王のもとに行って、「陛下、私にめでたい事があります。私は陛下の召使であるプンナヴァッダナのために、ダナンジャヤ長者の娘でヴィサーカーという名の少女を迎えに行きます。どうかサーケータ市に行くことを私にお許しください」と告げた。「すばらしいことだ、大長者よ。私も同行するべきか？」と〔王が訊ねると、ミガーラは「陛下、私は陛下のようなお方のご同行をどうして賜れましょうか」と〔辞退しようとした〕。王は大家の息子に好意を示そうと思い、「長者よ、よろしい。私も行こう」と〔言って〕、同意し、ミガーラ長者とともにサーケータ市に行った。ダナンジャヤ長者は「ミガーラ長者はコーサラ王を連れてきたそうだ」と聞き、出迎え、王を自身の居住に連れてきた。すぐに、パセーナディ王と王の軍隊とミガーラ長者のために、居住や香料と衣服などを整えた。「これはこの人が、これはこの人が取るのがよい」と〔ダナンジャヤが〕すべてのことを自ら取り仕切ったので、ひとりひとりが「長者は私だけもてなしてくれている」と考えた。

A ath' ekadivasaṃ rājā dhanañjayaseṭṭhissa sāsanaṃ pahiṇi: na sakkā seṭṭhinā cirakālaṃ amhākaṃ bharaṇaṃ posanaṃ kātuṃ, dārikāya gamanakālaṃ jānātū” ti. so pi rañño sāsanaṃ pesesi: idāni vassakālo āgato, na sakkā cātumāsaṃ vicarituṃ,

tumhākaṃ balakāyassa yaṃ yaṃ laddhuṃ vaṭṭati, sabban taṃ mama bhāro, kevalaṃ devo mayā pesitakāle gacchatū" ti. tato paṭṭhāya sāketanagaraṃ niccanakkhattagāmo viya ahosi. evaṃ tayo māsā atikkantā. dhanañjayaseṭṭhino pana dhītāya mahālatāpasādhanaṃ na tāva niṭṭhaṃ gacchati.

それからある日、パセーナディ王はダナンジャヤ長者に「〔ダナンジャヤ〕長者さんは〔それほど〕長くは、私たちを支え、私たちに食を給することはできないでしょう。あなたは娘さんの出発の時をお知り下さい」と伝言を送った。ダナンジャヤ長者もパセーナディ王に「今はもう雨期が来ましたので、４ヶ月の間は移動することができないでしょう。陛下の軍隊に必要なものは何でも私がご負担しましょう。ただ、陛下、私がご連絡を差し上げる時に、ご出発なさって下さい」と伝言を送った。それ以後、サーケータの都は毎日がお祭りのようであった。このようにして３ヶ月が過ぎた。しかしダナンジャヤ長者の娘の大蔓草型装身具はまだ完成しなかった。

A ath' assa kammantādhiṭṭhāyakā āgantvā ārocayiṃsu: sesaṃ asantaṃ nāma n' atthi, balakāyassa pana bhattapacanadārūni nappahontī ti. "gacchatha, tātā, hatthisālā assasālā viyojetvā bhattaṃ pacathā" ti. evaṃ pacantānam pi aḍḍhamāso atikkanto. tato puna ārocayiṃsuṃ: dārūni sāmi nappahontī ti. "tātā, imasmiṃ kāle dārūni laddhuṃ na sakkā, dussakoṭṭhāgāraṃ pana vivaritvā thūlasaṭake gahetvā vaṭṭiyo katvā telacāṭiyaṃ temetvā bhattaṃ pacathā" ti. iminā niyāmena pacantānaṃ cattāro māsā pūrayiṃsu.

それから〔接待〕業務の責任者らがやって来て、ダナンジャヤに「他には何も不足していませんが、軍隊のための炊事用の薪が十分ではありません」と告げた。〔ダナンジャヤ長者は〕「君たち、さあ、象小屋や馬小屋を解体して〔木材を得て〕、炊事しなさい」と〔命じた〕。このように炊事していたけれども、半月が過ぎると、それから〔彼らは〕また「ご主人様、薪が十分ではありません」と告げた。〔ダナンジャヤ長者は〕「今の時期は薪を手に入れることができない。衣服の倉庫を開けて、粗末な衣を取り出して灯心とし、油の容器に浸して〔火をつけて〕炊事をしなさい」と〔命じた〕。この方法で炊事しながら４ヶ月が満ちた。

［11］ヴィサーカーの豪華な装身具：*DhA.*（vol. I p.394,l.2〜p.395,l.8）

D evaṃ cattāro māsā atikkantā, pasādhanam pi niṭṭhitaṃ, asuttamayaṃ pasādhanaṃ rajatena suttakiccaṃ kariṃsu. taṃ sīse paṭimukkaṃ pādapiṭṭhiṃ gacchati, tasmiṃ tasmiṃ ṭhāne muddikā yojetvā katā suvaṇṇamayā gaṇṭhikā honti, rajatamayā pāsakā, matthakamajjhe ekā muddikā, dvīsu kaṇṇapiṭṭhīsu dve, galavāṭake ekā, dvīsu jannusu dve, dvīsu kapparesu dve, dvīsu kaṭipadesesu dve ti.

このようにして４ヶ月が過ぎ、装身具もできあがった。装身具は糸から作ったものではなく、〔金属細工職人らは〕糸でするような〔網目のような〕細工を銀で凝らした。その装身具は頭に載せられて〔後ろに垂れて〕踵に届く〔ほど長く〕、ところどころに環の飾りが結び付けられており、〔それを結び付ける〕紐は金製で、〔その紐が掛けられる〕留

め具が銀製であった。環は頭上の中央に１つ、両耳の後ろに２つ、頸まわりに１つ、両膝に２つ、両肘に２つ、腰の両側に２つあった。

D tasmiṃ kho pana pasādhane ekaṃ moraṃ kariṃsu, tassa dakkhiṇapakkhe rattasuvaṇṇamayāni pañca pattasatāni ahesuṃ, vāmapakkhe pañca pattasatāni, tuṇḍaṃ pavāḷamayaṃ akkhīni maṇimayāni tathā gīvā ca piñjāni ca pattanāḷiyo ratanamayā tathā jaṅghā, so visākhāya matthakamajjhe pabbatakūṭe ṭhatvā naccanamayūro viya khāyatī" ti pattanāḷisahassasaddo(1) dibbasaṅgītaṃ viya pañcaṅgikaturiyaghoso viya ca pavattati. santikaṃ upagatā yeva tassa amorabhāvaṃ jānanti, [395] pasādhanaṃ navakoṭi-agghaṇakaṃ ahosi, satasahassaṃ hatthakammamūlaṃ dīyittha.

（1）pattanāḷisahassasaddo. 底本 pattanālisahassasaddo を異読によって訂正する。

また、〔職人らは〕その装身具に一羽の孔雀を作り、その右翼には赤金製の 500 の羽根がついていた。左翼にも 500 の羽根が〔つき〕、くちばしは珊瑚で作られ、眼は宝珠で作られていた。同様にして首と尾と羽根の羽軸（羽茎）も宝石でできており、同様に、足も宝石で作られていた。その孔雀がヴィサーカーの頭上の中央にあって、あたかも山頂に立って踊っている孔雀ように見えた。1000 の羽軸の音は、まるで天の合唱のように、また、五弦楽の音のように響いた。人が間近に近づいてやっとそれが本物の孔雀ではないことがわかるような代物であった。装身具は 9 億金に値し、10 万金の技術料が〔職人に〕支払われた。

D kissa pana nissandena tāy' etaṃ pasādhanaṃ laddhan ti. sā kira kassapabuddhakāle vīsatiyā bhikkhusahassānaṃ cīvarasāṭakaṃ datvā suttam pi sūciyo pi rajanam pi attano santakam eva adāsi, tassa cīvaradānassa nissandena imaṃ pasādhanaṃ labhi. itthīnaṃ hi cīvaradānaṃ mahālatāpasādhanabhaṇḍena matthakaṃ pappoti, purisānaṃ iddhimayapattacīvarenā ti.

いったい、どのような〔善行の〕結果によって、彼女はこの装身具を得たのであろうか。伝え聞くところでは、彼女はカッサパ仏陀 (1) の時代に、２万人の比丘に衣の布地を布施してから、糸も、針も、染料も、自分の一切合財を布施した。その衣の布施の結果によって〔ヴィサーカーは〕この装身具を得た。なんとなれば、女性による衣の布施は、大蔓草型装身具という財で最高に達する。男性による衣の布施は神変によって生じる鉢と衣（＝出家）で最高に達するからである。

（1）過去七仏のうちで第 6 番目の仏。

［12］ミガーラ家に行くための準備：*DhA.*（vol. I p.395,l.9〜p.397,l.11）

D evaṃ mahāseṭṭhī catumāsehi dhītu parivacchaṃ katvā tassā deyyadhammaṃ dadamāno kahāpaṇapūrāni pañca sakaṭasatāni adāsi, suvaṇṇabhājanapūrāni pañca sakaṭasatāni rajatabhājanapūrāni pañca tambabhājanapūrāni pañca paṭṭavattha-koseyyavatthapūrāni pañca sakaṭasatāni, sappipūrāni pañca sālitaṇḍulapūrāni pañca naṅgalaphālādiupakaraṇapūrāni pañca sakaṭasatāni.

このように、大長者は４ヶ月の間、娘の〔嫁入りの〕準備をしてから、与えるべきものを与える時に、カハーパナ金貨で一杯の 500 台の荷車、金の器で一杯の 500 台の荷車、銀の器で一杯の 500 台の荷車、銅器で一杯の 500 台の荷車、美衣と絹衣で一杯の 500 台の荷車、酥で満たされた 500 台の荷車、サーリ米・タンドゥラ米で一杯の 500 台の荷車、犂・鋤などの資具で一杯の 500 台の荷車を彼女に与えた。

D evaṃ kir' assa ahosi: “mama dhītāya gataṭṭhāne ‘asukena nāma me attho’ ti mā parassa gehadvāraṃ pahiṇī” ti. tasmā sabbūpakaraṇāni dāpesi. ekekasmiṃ rathe sabbālaṅkārapaṭimaṇḍitā tisso tisso vaṇṇadāsiyo ṭhapetvā pañca rathasatāni adāsi, “etaṃ nahāpentiyo bhojentiyo alaṅkarontiyo vicarathā” ti diyaḍḍhasahassaparicārikā adāsi.

このような思いがダナンジャヤ長者に生じたそうだ。「私の娘が行った先で、『私にこれこれのものがあればよいのに』といって、他の家の門に使いを出すようなことがないようにしたい」と。それゆえ、長者はすべての資具を〔ヴィサーカーに〕贈った。〔ダナンジャヤは〕各荷車に、ありとあるゆる装身具で着飾った美しい侍女を３人ずつ乗せて、500 台の荷車を与えた。〔ダナンジャヤ長者は〕「お前たちはヴィサーカーに水浴させたり、食事を給仕したり、飾りつけをしたりするものとして、〔ついて〕行くのだ」と〔侍女らに告げて〕、〔合計で〕1500 人の侍女を〔ヴィサーカーに〕与えた。

D ath' assa etad ahosi: “mama dhītu gāvo dassāmī” ti. so [396] purise āṇāpesi: “gacchatha bhaṇe cūḷavajassa dvāraṃ vivaritvā tīsu gāvutesu tisso bheriyo gahetvā tiṭṭhatha, puthulato usabhamattaṭṭhāne ubhosu passesu tiṭṭhatha, gāvīnaṃ tato paraṃ gantuṃ mā daditthā(1). evaṃ ṭhitakāle bherisaññaṃ kareyyāthā” ti. te tathā akaṃsu; te gāvīnaṃ vajato nikkhamitvā gāvutaṃ gatakāle bherisaññaṃ akaṃsu, puna aḍḍhayojanaṃ gatakāle akaṃsu. puna tigāvutaṃ gatakāle, puthulato gamanaṃ ca nivāresuṃ. evaṃ dīghato tigāvute, puthulato usabhamatte ṭhāne gāviyo aññamaññaṃ nighaṃsantiyo aṭṭhaṃsu. mahāseṭṭhī “mama dhītu ettikā gāvo alaṃ, dvāraṃ pidahathā” ti vajadvāraṃ pidahāpesi. tasmiṃ pihite visākhāya puññaphalena balavagāvo ca dhenuyo ca uppatitvā nikkhamiṃsu. manussānaṃ vārentānaṃ eva saṭṭhisahassā balavagāvo saṭṭhisahassā ca dhenuyo nikkhantā, tattha pacchā(2) tāsaṃ dhenūnaṃ usabhā uppatitvā anubaddhā(3) ahesuṃ.

（1）底本の‘ti’をビルマ版によって削除する。

（2）pacchā. 底本の balavavacchā を異読により訂正する。

（3）uppatitvā anubaddhā. 異読により補う。

その時、ダナンジャヤ長者にこのような思いが生じた。「私の娘に牛を与えよう」と。ダナンジャヤは下男たちに「さあ、小牛舎の戸を開けてから、３ガーヴタ (1) の長さに、太鼓３つ（１ガーヴタごとに太鼓１つ）を持って立ち並びなさい。１ウサバ (2) 程度の幅で両側に立ち並びなさい。雌牛たちをそこから他所に行かせないようにしなさい。そのようにして立ち並んだら、太鼓の音を立てなさい」と命令した。下男たちはそのようにした。彼らは牛たちが牛舎から出てから１ガーヴタ行ったところで太鼓の音を立てた。さらに牛たちが半ヨージャナ（２ガーヴタ）進んだところで〔太鼓の音を〕立てた。さらに牛たち

が３ガーヴタ行ったところで〔もまた太鼓の音を立てて〕、横にそれて行くことを防いだ。このようにして長さ３ガーヴタ、幅１ウサバ程度の場所に牛群がおしあいへしあいしながら立っていた。大長者は「私の娘にはこれぐらいの牛で十分であろう。戸を閉めなさい」と言って、牛舎の戸を閉めさせた。その戸が閉められた時に、ヴィサーカーの功徳の力によって、元気な牛たちと乳牛たちが次々と飛び上がり、〔牛舎から〕飛び出した。下男らが止めるにもかかわらず、６万頭の元気な牛と６万頭の乳牛が飛び出してしまった。そのうえ、その乳牛たちの後から牡牛たちも飛び上がってついて出てきてしまった。

（1）長さの単位。牛の鳴き声が届く距離。４ガーヴタ＝１ヨージャナ

（2）長さの単位

D “kassa nissandena evaṃ gāvo gatā” ti. nivārentānaṃ nivārentānaṃ dinnadānassa. sā kira kassapasammāsambuddhakāle kikissa rañño sattannaṃ dhītānaṃ kaniṭṭhā saṅghadāsī nāma hutvā vīsatiyā bhikkhusahassānaṃ pañca [397] gorasadānaṃ dadamānā daharānañ ca sāmaṇerānañ ca hattaṃ pidahitvā, “alaṃ, alan(1)” ti nivārentānam pi “idaṃ madhuraṃ, idaṃ manāpan” ti adāsi. evaṃ tassa nissandena vāriyamānā pi gāvo nikkhamiṃsu.

（1）底本は alaṃ とするが、誤植であろう。

どのような（善行）の結果によって、このように牛たちが〔小屋から〕飛び出したのか。〔それは〕拒まれても、拒まれても、〔比丘たちに〕なされた布施の〔結果である〕。伝え聞くところでは、彼女はカッサパ仏の時代に、キキ王の７人の娘たちの中、サンガダーシーという名前の末娘になり(1)、２万人の比丘に５種の牛乳の布施を施しながら、若い比丘らと沙弥らが鉢を閉じて、「けっこうです、けっこうです」と言って拒んでいるにもかかわらず、「これは美味しいですよ。これはお気にめしますよ」と言って与えた。このように、その結果によって、止められても牛たちが〔牛舎〕から飛び出したのである。

（1）これについては【2】－［7］、【5】－［22］参照

D seṭṭhinā ettakassa dhanassa dinnakāle seṭṭhibhariyā āha: “tumhehi mayhaṃ dhītu sabbaṃ saṃvidahitaṃ. veyyāvaccakarā pana dāsadāsiyo na saṃvidahitā, kiṃkāraṇā” ti. “mama dhītari sasnehanisnehaṃ(1) jānanatthaṃ; ahaṃ hi tāya saddhiṃ agacchamānake gīvāya gahetvā no pahiṇāmi, yānaṃ āruyha gamanakāle yeva(2) “etāya saddhiṃ gantukāmā gacchantu, mā agantukāmā” ti vakkhāmī” ti.

（1）底本の‘sasnehanisnehānaṃ’を異読‘sinehāsinehaṃ’を参考にして読み改める。

（2）gamanakāle yeva. 底本の gamanakāle evam pana を異読によって訂正する。

ダナンジャヤ長者がこれらの財産を〔ヴィサーカーに〕与えた時に、長者の妻が言った。「あなたは私たちの娘のためにすべてを整えました。しかし、奉仕する下男・下女らを〔未だ〕整えていませんが、どうしてですか？」と。〔ダナンジャヤ長者は〕「私の娘に対して愛情のある人とない人とを知り分けるためだ。なぜなら、私は、娘とともに行こうとしない人々の首をつかまえて〔無理強いして〕行かせるわけにもいくまい。娘が乗り物に乗って行く時になってから、私は「娘とともに行きたい者は行きなさい。行きたくない者は〔行かないでください〕」と言うつもりだ」と〔答えた〕。

［13］ヴィサーカーに対するダナンジャヤ長者の 10 項目の教誡：*DhA.*（vol. I p.397,l.12～p.399,l.2）；*AN.-A.*（vol. I p.410,l.1～p.411,l.3）

D atha “sve mama dhītā gamissatī” ti gabbhe nisinno dhītaraṃ samīpe nisīdāpetvā, “amma patikule vasantiyā nāma imañ ca imañ ca ācāraṃ rakkhituṃ vaṭṭatī” ti ovādaṃ adāsi. ayam pi migāraseṭṭhī anantaragabbhe(1) nisinno pana dhanañjayaseṭṭhino ovādaṃ assosi. so pi seṭṭhī dhītaraṃ evaṃ ovadi: “amma, sasurakule vasantiyā nāma antoaggi bahi na nīharitabbo, bahi-aggi anto na pavesetabbo, dadantass' eva dātabbaṃ, adadantassa na dātabbaṃ(2), [398] dadantassā pi adadantassāpi dātabbaṃ, sukhaṃ nisīditabbaṃ, sukhaṃ bhuñjitabbaṃ, sukhaṃ nipajjitabbaṃ, aggi paricaritabbo, antodevatāpi namassitabbā” ti.

（1）anantaragabbhe. 底本は antaragabbhe とするが異読により訂正する。

（2）dātabbaṃ. 底本は dātabbāṃ とするが訂正する。誤植であろう。

そこで、ダナンジャヤ長者は「明日、私の娘は行くであろう」と〔考えて〕、内部屋に坐り、娘を近くに坐らせて、「娘よ、夫の家に住む女はこれこれの行為を慎むがよい」と教誡を与えた。ミガーラ長者もとなりあわせの部屋に坐って、〔こっそり〕ダナンジャヤ長者の教誡を聞いていた。

ダナンジャヤ長者は娘に以下のように説いた。「娘よ、舅の家に住む女たるや、①内の火を外に持ち出してはならない。②外の火を内に持ち込んではならない。③ものをくれる人にだけものを与えなさい。④ものをくれない人にものを与えてはならない。⑤ものをくれる人にも、くれない人にも、与えなさい。⑥安楽に坐りなさい。⑦安楽に食べなさい。⑧安楽に寝なさい。⑨火に奉仕しなさい。⑩内の神々を拝みなさい」。

D idaṃ dasavidhaṃ ovādaṃ datvā, punadivase sabbā seniyo sannipātetvā rājasenāya majjhe aṭṭha kuṭumbike pāṭibhoge gahetvā, “sace me gataṭṭhāne dhītu doso uppajjati tumhehi sodhetabbo” ti vatvā navakoṭi-agghaṇakena mahālatāpasādhanena dhītaraṃ pasādhetvā nahānacuṇṇamūlakaṃ catupaṇṇāsakoṭidhanaṃ datvā yānaṃ āropetvā sāketassa sāmantā attano santakesu anurādhapuramattesu cuddasasu bhattagāmesu āṇaṃ carāpesi: “mama dhītarā saddhiṃ gantukāmā gacchantū” ti. te saddaṃ sutvā va, “amhākaṃ ayyāya gamanakāle kiṃ amhākaṃ idhā” ti cuddasa gāmā kiñci asesetvā nikkhamiṃsu. dhanañjayaseṭṭhī pi rañño ca migāraseṭṭhino ca sakkāraṃ katvā thokaṃ anugantvā tehi saddhiṃ dhītaraṃ uyyojesi.

この 10 項目の教誡を与えてから、〔ダナンジャヤは〕翌日に商工組合の仲間を全員集合させ、王の軍隊の真ん中で 8 人の地主を保証人としてたてて、「もし私の娘が行った先で過失が生じたら、あなた方が嫌疑を晴らしていただきたい」と言って、9 億金に値する大蔓草型装身具で娘を飾りつけ、沐浴・香粉料として 54 億金を与え、乗り物に乗せてから、サーケータ市の周辺にある、アヌラーダプラほどの面積の、自身の所有であって年貢を納めさせている 14 の村々において、「私の娘とともに行きたい者は行きなさい」との命令を布告させた。村々の人々はその声を聞き、「私たちのお嬢様が出発なさる時に、私たちがここにいて何になる」といって、何も残さずに 14 の村々から出発した。ダナンジャヤ長者も、王とミガーラ長者を敬って少しの間ついて行き、彼らと〔ともに去っていく〕

娘を見送った。

D migāraseṭṭhī sabbapacchato yānake nisīditvā gacchanto balakāyaṃ disvā, “ke nām' ete” ti pucchi. “suṇisāya vo veyyāvaccakarā dāsidāsā” ti. “ettake ko posessati pothetvā ne palāpetha, apalāyante ito karothā” ti. visākhā pana, “apetha mā vāretha balam eva balassa bhattaṃ dassatī” ti āha. seṭṭhī evaṃ vutte pi, “amma n' atthi amhākaṃ eteh' attho, [399] ko ete posessatī” ti leḍḍudaṇḍādīhi pothāpetvā palātāvasesake “alaṃ amhākaṃ ettakehī” ti gahetvā pāyāsi.

ミガーラ長者は全員の最後に乗り物に坐り、進みながら、〔後をついてくる〕人々の大群を見て、「これらはいったいどういう人々なのか？」と訊ねた。「あなた方のお嫁さんに奉仕する下男・下女らです」と〔聞いて、ミガーラ長者は〕「誰がこれだけの人々を養えるであろうか。こいつらをたたいて追い払いなさい。ここから逃げていかないものたち〔だけに〕しなさい」と〔命じた〕。するとヴィサーカーが「〔暴力をふるおうとする者たちに〕うせなさい。〔ついてくる人々を〕妨げないでください。大群を養えるのは大群だけです」と言った。ミガーラ長者はこのように言われても、「嫁よ、私たちにはこれらの人々は無用だよ。誰がこれらの人々を養うのだ」と言って、土くれや棒などで打たせた後に、「私たちにはこれぐらいで十分だ」と、追い払われても逃げずに残った人々を連れて出発した。

A tato dhanañjayaseṭṭhi dhituyā mahālatāpasādhanassa niṭṭhitabhāvaṃ ñatvā “sve dhītaraṃ pesessāmī” ti dhītaraṃ samīpe nisīdāpetvā “amma patikule vasantiyā nāma imañ ca imañ ca ācāraṃ sikkhituṃ vaṭṭatī” ti ovādaṃ adāsi. ayaṃ pi migāraseṭṭhi anantare gabbhe nipanno dhanañjayaseṭṭhino ovādaṃ assosi.

so pi seṭṭhi dhītaraṃ evaṃ ovadi: amma sasurakule vasantiyā nāma anto-aggi bahi na nīharitabbo, bahi-aggi anto na pavesetabbo, dadantass' eva dātabbaṃ, adadantassa na dātabbaṃ, dadantassāpi adadantassāpi dātabbaṃ, sukhaṃ nisīditabbaṃ, sukhaṃ bhuñjitabbaṃ, sukhaṃ nipajjitabbaṃ, aggi paricaritabbo, antodevatā namassitabbā ti.

それから、ダナンジャヤ長者は娘の大蔓草型装身具の完成を知って「明日、娘を送ろう」と〔考え〕、娘を近くに坐らせて「娘よ、夫の家に住む女たるや、これこれの行為を学ぶがよい」と教誡を与えた。ミガーラ長者もとなりあわせの部屋に坐って、〔こっそり〕ダナンジャヤ長者の教誡を聞いていた。

ダナンジャヤ長者は娘に以下のように説いた。「娘よ、舅の家に住む女たるや、①内の火を外に持ち出してはならない。②外の火を内に持ち込んではならない。③ものをくれる人にだけものを与えなさい。④ものをくれない人にものを与えてはならない。⑤ものをくれる人にも、くれない人にも、与えなさい。⑥安楽に坐りなさい。⑦安楽に食べなさい。⑧安楽に寝なさい。⑨火に奉仕しなさい。⑩内の神々を拝みなさい」。

A imaṃ dasavidhaṃ ovādaṃ datvā punadivase sabbā seniyo sannipātetvā rājasenāya majjhe aṭṭha kuṭumbike pāṭibhoge gahetvā “sace me dhītu gataṭṭhāne doso uppajjati, tumhehi sodhetabbo” ti vatvā navakoṭi-agghanakena mahālatāpasādhanena

dhītaraṃ pasādhāpetvā nahānacuṇṇamūlaṃ catupaññāsasakaṭasataṃ dhanaṃ datvā dhītāya saddhiṃ nibaddhaṃ sahacāriniyo pañcasatā dāsiyo pañca ājaññarathasatāni sabbasakkārañ (sabbūpakārañ?) ca sataṃ sataṃ datvā kosalarājānañ ca migāraseṭṭhiñ ca vissajjetvā dhītu gamanavelāyaṃ vajādhiṭṭhāyake purise pakkosāpetvā, “tātā mama dhītāya gataṭṭhāne khīrapānatthaṃ dhenuhi yānayojanatthaṃ usabhehi ca attho hoti, tasmā mama dhītu gamanamagge vajadvāraṃ vivaritvā puthulato aṭṭha usabhāni gogaṇena pūretvā tigāvutamatthake “asukā nāma kandarā atthi, aggagoyūthe taṃ ṭhānaṃ patte bherisaññāya vajadvāraṃ pidaheyyāthā” ti. te “sādhū” ti seṭṭhissa vacanaṃ sampaṭicchitvā tathā akaṃsu. vajadvāre vivaṭe uḷāruḷārā va gāvo nikkhamiṃsu, pidahite(1) pana visākhāya puññena balavagāvo ca dammagāvo ca vatiṃ laṃghetvā maggaṃ paṭipajjiṃsu.

（1）pidahite.底本 pihite を異読によって訂正する。

この 10 項目の教誡を与えてから、翌日に、商工組合の仲間を全員集合させ、王の軍隊の真ん中で８人の地主を保証人としてたてて「もし私の娘の行った先で過失が生じたら、あなた方が嫌疑を晴らしていただきたい」と言って、９億金に値する大蔓草型装身具で娘を飾りつけ、沐浴・香粉料として 54 億金を与え、いつも娘とともにいて奉仕する 500 人の下女と、駿馬の引く 500 台の車と、すべての資具を 100 ずつ与えてから、コーサラ王とミガーラ長者とを見送り、娘の出発時に、牛舎を管理する下男らを呼び、「お前たち、私の娘には、行った先で牛乳を飲むために乳牛たちが、車を引かせるために牡牛たちが入用だ。だから、私の娘が進む道で、牛舎の戸を開いて、８ウサバの幅を牛群で満たして、３ガーヴタ程いったところにこれこれという名の渓谷があるから、先頭の牛群れがその場所に到達したら、太鼓の音を立てて牛舎の戸を閉めなさい」と〔命じた〕(1)。下男らは「わかりました」と長者の言葉を受けてそのようにした。牛舎の戸が開かれた時に、はなはだ立派な牛だけが出てきた。しかも、〔牛舎の戸が〕閉められた時に、ヴィサーカーの功徳によって元気な牛たちと〔これから〕調御されるべき〔若い〕牛たちが垣を跳び越えて道に入って進んでいった。

（1）先に【5】－［12］*DhA.* vol. I p.395,l.22–p.396,l.16 の記述と太鼓の使い道などが多少異なる。

［14］ヴィサーカーが舎衛城に到着する：*DhA.*（vol. I p.399,l.3～p.400,l.1）；*AN.-A.*（vol. I p.411,ll.3～21）

D A atha visākhā sāvatthinagaradvāraṃ(1) pattakāle(2) cintesi: “paṭicchannayānakasmiṃ nu kho nisīditvā pavisāmi udāhu rathe ṭhatvā” ti. ath' assā etad ahosi: “paṭicchannayānake(3) me pavisantiyā mahālatāpasādhanassa viseso na paññāyissatī” ti. sā sakalanagarassa attānaṃ dassentī rathe ṭhatvā nagaraṃ pāvisi. sāvatthivāsino visākhāya sampattiṃ disvā, “esā kira visākhā nāma, evarūpā(4) ayaṃ(5) sampatti etissā va anucchavikā” ti āhaṃsu. iti sā mahāsampattiyā seṭṭhino(6) gehaṃ pāvisi.

（1）sāvatthinagaradvāraṃ. *AN.-A.*では nagaradvāraṃ とする。

（2）pattakāle. *AN.-A.*では sampattakāle とする。
（3）paṭicchannayānake. *AN.-A.*では paṭicchannayānena とする。
（4）evarūpā. *AN.-A.*では etaṃ rūpaṃ とする。
（5）ayaṃ. *AN.-A.*では ayañ ca とする。
（6）seṭṭhino. *AN.-A.*では migāraseṭṭhino とする。

それから、ヴィサーカーは舎衛城の都門に到った時に「私は覆いのある乗り物に坐って入城しようか、あるいは車の上に立って〔入城しようか〕」と考えた。その時、彼女にこのような思いが生じた。「私が覆いのついた乗り物に〔坐って〕入ったならば、大蔓草型装身具のすばらしさを〔人々に〕知らしめることができないだろう」と。彼女は都中に自身を見せつつ車の上に立って都に入った。舎衛城の人々はヴィサーカーの立派な様を見て、「あの方は名前をヴィサーカーというそうだ。このような立派な様はこの方にしか相応しくない」と言った。このように、彼女は大いに立派な様で、長者の家に入った。

D A āgatadivase(1) yev' assā(2) sakalanagaravāsino “amhākaṃ dhanañjayaseṭṭhī attano nagaraṃ sampattānaṃ mahāsakkāraṃ(3) akāsī” ti yathāsatti(4) yathābalaṃ paṇṇākāraṃ pahiṇiṃsu, visākhā pahitapahitapaṇṇākāraṃ tasmiṃ yeva nagare aññamaññesu kulesu sabbatthakam eva dāpesi. iti sā “idaṃ mayhaṃ mātu detha idaṃ pitu detha idaṃ bhātu detha idaṃ bhaginiyā” ti(5) tesaṃ tesaṃ vayānurūpaṃ piyavacanaṃ vatvā paṇṇākāraṃ pesentī sakalanagaravāsino ñātike viya akāsi.

ath' assā rattibhāgasamanantare(6) ājaññavaḷavāya gabbhavuṭṭhānaṃ ahosi. sā dāsīhi saddhiṃ(7) daṇḍadīpake(8) gāhāpetvā tattha gantvā vaḷavaṃ uṇhodakena nahāpetvā [400] telena makkhāpetvā attano vasanaṭṭhānam eva agamāsi.

（1）āgatadivase. 底本 *DhA.*及び *AN.-A.*ともに gatadivase とするが両者の異読により訂正する。
（2）yev' assā. *AN.-A.*では c' assā とする。
（3）mahāsakkāraṃ. *AN.-A.*では mahāsakkāre とする。
（4）yathāsatti. *AN.-A.*では yathāsattiṃ とする。
（5）iti sā “idaṃ mayhaṃ mātu detha, idaṃ pitu detha, idaṃ bhātu detha, idaṃ bhaginiyā” ti tesaṃ tesaṃ vayānurūpaṃ piyavacanaṃ vatvā paṇṇākāraṃ pesentī sakalanagaravāsino ñātike viya akāsi. この一文、*AN.-A.*になし。
（6）*AN.-A.*では rattibhāgasamanantare の後に ekissā が挿入されている。
（7）saddhiṃ. *AN.-A.*に欠。
（8）daṇḍadīpake. *AN.-A.*では daṇḍadīpikā とする。

〔彼女が〕やって来た当日に、都（舎衛城）の人々はみな「ダナンジャヤ長者はご自身の都（サーケータ）に行った我々を大いにもてなしてくれたから」といって、あたう限り、力の及ぶ限り、ヴィサーカーに手紙に添えた贈り物を贈った。ヴィサーカーは、贈り物が送られてくるとそのつど、その贈り物を舎衛城内のそれを送ってくれたのとは別の家に送らせるようにして、都中に贈り物を送らせた。このようにして彼女は、「これを私の母に贈ってください。これを父に贈ってください、これを兄に贈ってください、これを妹に」と、相手それぞれの年齢に応じて、美しい言葉をかけて贈り物を贈りつつして、都中の人々みなを親戚のようにしてしまった。

それから、真夜中にヴィサーカーの善種の雌馬がお産するということがあった。彼女は

下女とともに松明を手にしてそこに行き、雌馬をお湯で洗わせ、油を塗らせ、自身の居所に帰った。

［15］裸行者を信仰するミガーラ長者：*DhA.*（vol. I p.400,l.2～p.400,l.22）；*AN.-A.*（vol. I p.411,l.21～p.412,l.13）

D migāraseṭṭhī puttassa āvāhamaṅgalaṃ karonto dhuravihāre vasantaṃ pi tathāgataṃ(1) amanasikatvā dīgharattaṃ naggasamaṇesu patiṭṭhitena pemena codiyamāno “mayhaṃ ayyānaṃ(2) sakkāraṃ karissāmī” ti ekadivasaṃ anekasatesu navabhājanesu nirudakapāyāsaṃ pacāpetvā pañcasate acelake nimantāpetvā attano gehaṃ pavesetvā, “āgacchatu me suṇisā, arahante vandatū” ti visākhāya sāsanaṃ pahiṇi.

（1）底本は tathāgatāṃ とするが、誤植であろう。

（2）底本は ayyānam pi とするも異読にしたがって pi をとる。

ミガーラ長者は息子のために嫁取りの婚礼を挙行しながら、如来が隣の精舎に住しておられたにもかかわらず意にかけることなく、長時にわたって裸形沙門に対して定まった信愛の念に促されて、「私は私の聖者たちを敬おう」とある日、何百枚もの新しい器で水気のない粥を調理させ、500 人の裸行者を招待させ、自分の家に招き入らせ、「私の嫁は来なさい。阿羅漢たちを敬いなさい」とヴィサーカーに伝言を送った。

A migāraseṭṭhi pi sattāhaṃ puttassa āvahasakkāraṃ karonto dhuravihāre vasantam pi tathāgataṃ amanasikatvā sattame divase sakalanivesanaṃ pūrento naggasamaṇake nisīdāpetvā “āgacchatu me dhītā arahante vandatū” ti visākhāya sāsanaṃ pahiṇi.

ミガーラ長者は 7 日間にわたって息子の嫁取りの婚礼を挙行しながら、如来が隣の精舎に住しておられたにもかかわらず意にかけることなく、 7 日目に、家全体をうめつくす〔ほどたくさんの〕裸形沙門たちを坐らせ、「我が娘は来なさい。阿羅漢たちを敬いなさい」とヴィサーカーに伝言を送った。

D sā arahanto ti vacanaṃ sutvā sotāpannā ariyasāvikā haṭṭhatuṭṭhā hutvā tesaṃ bhojanaṭṭhānaṃ āgantvā te oloketvā, “evarūpā hirottappavirahitā arahantā nāma na honti kasmā maṃ sasuro pakkosāpesī”ti, seṭṭhiṃ garahitvā attano vasanaṭṭhānam eva gatā.

彼女は「阿羅漢」という言葉を聞き、預流を得た聖声聞女である彼女は、身毛を逆立てて喜び満足し、その裸行者らの食事の場に来て彼らを見て、「このように慚愧を欠いた阿羅漢なんていやしません。どうして舅は私を呼ばせたのですか？」と〔言って〕ミガーラ長者を非難し、自身の居所に戻ってしまった。

A sā arahantā ti vacanaṃ sutvā sotāpannā ariyasāvikā haṭṭhatuṭṭhā hutvā tesaṃ nisinnaṭṭhānaṃ gantvā te oloketvā “evarūpā nāma arahantā hontī” ti “hirottappavivajjitānaṃ nāma santikaṃ kasmā maṃ sasuro pakkosāpetī” ti “dhi, dhī” ti garahitvā attano vasanaṭṭhānam eva gatā.

彼女は「阿羅漢」という言葉を聞き、預流果を得た聖声聞女であった彼女は身毛を逆立

てて喜び満足して、その裸行者らが坐っている所に来て彼らを見て、「このような者たちは阿羅漢ではありません」と〔言ってさらに〕「どうして舅は慚愧を欠いた者たちのもとに私を呼ばせたのか」と〔さらに〕「いやだ、いやだ」と非難して、自身の居所に帰ってしまった。

D A acelakā(1) taṃ(2) disvā sabbe ekappahāren' eva seṭṭhiṃ garahiṃsu: “kiṃ tvaṃ gahapati aññaṃ nālattha(3), samaṇassa gotamassa sāvikaṃ mahākālakaṇṇiṃ idha(4) pavesesi, vegena naṃ imasmā gehā nikkaḍḍhāpehī(5)” ti.

（1）acelakā. *AN.-A.*は naggasamaṇā とする。

（2）taṃ. *AN.-A.*は naṃ とする。

（3）nālattha. *AN.-A.*は nālabhittha とする。

（4）idha. *AN.-A.*は kasmā imaṃ gehaṃ とする。

（5）nikkaḍḍhāpehī. *AN.-A.*は nīharāhī とする。

裸行者たちはそれを見て、みないっせいに長者を非難した。「長者よ、どうしてあなたは他〔の嫁〕をとらなかったのか。どうして沙門ゴータマの声聞女などというたいへん不吉な女をここに入れてしまったのか。速やかにその女をこの家から追い出しなさい」と。

D so “na sakkā mayā imesaṃ vacanamatten' eva nikkaḍḍhāpetuṃ, mahākulassa sā dhītā” ti cintetvā, “ayyā, daharā nāma jānitvā vā ajānitvā vā kareyyuṃ, tumhe tuṇhī hothā” ti, te uyyojetvā mahārahe āsane nisīditvā suvaṇṇapātiyaṃ appodakaṃ madhupāyāsaṃ paribhuñjati.

長者は、「私はこの女を、これらの裸行者らの言葉だけで追い出すことはできない。彼女は大家の娘なのだ」と考えて、「聖者らよ、若い女というものは、知ろうと知らなかろうと〔何でも〕してしまうものです。あなた方はどうかお静まりください」と〔言って〕、裸行者らを送り出し、高価な座に坐り、金の器から乾いた蜜粥を食べた。

A tato seṭṭhi “na sakkā mayā imesaṃ vacanena imaṃ gehā nīharituṃ, mahākulassa dhītā ayan” ti cintetvā “ācariyā daharā nāma jānitvā vā ajānitvā vā kareyyuṃ, tumhe tuṇhī hothā” ti nagge uyyojetvā mahāpallaṃke nisīditvā(1) suvaṇṇakaṭacchuṃ gahetvā visākhāya parivisiyamāno suvaṇṇapātiyaṃ appodakamadhupāyāsaṃ paribhunji.

（1）底本は nisīdāpetvā とするが、異読‘nisiditvā’を参考にして訂正する。

それから長者は「私はこれらの方々の言葉に従ってこの女を家から連れ出すことはできない。この女は大家の娘なのだ」と考えて、「聖者らよ、若い女というものは知ろうと知らなかろうと〔何でも〕してしまうものです。あなた方はどうかお静まりください」と〔言って〕、裸行者らを送り出し、大きな座に坐り、金の匙をとり、ヴィサーカーに給仕されながら金の器から乾いた蜜粥を食べた。

［16］舅との不和：*DhA.*（vol. I p.400,l.22～p.402,l.17）；*AN.-A.*（vol. I p.412,l.13～p.414,l.4）

D A tasmiṃ samaye eko piṇḍacārikatthero piṇ[401]ḍāya caranto taṃ nivesanaṃ pāvisi (1). visākhā sasuraṃ vījamānā ṭhitā(2), taṃ disvā “sasurassa ācikkhituṃ

ayuttaṃ(3)" ti yathā so theraṃ passati, evaṃ apagantvā aṭṭhāsi; so pana bālo theraṃ disvāpi apassanto viya hutvā adhomukho bhuñjat' eva(4). visākhā "theraṃ disvāpi me sasuro saññaṃ na karotī" ti ñatvā(5) "aticchatha bhante mayhaṃ sasuro purāṇaṃ khādatī" ti āha.

（1）taṃ nivesanaṃ pāvisi. *AN.-A.*では seṭṭhissa gharadvāraṃ pāpuni（長者の家の門に着いた）。

（2）sasuraṃ vījamānā ṭhitā. *AN.-A.*に欠。

（3）ayuttaṃ. *AN.-A.*では na yuttan とする。

（4）adhomukho bhuñjat' eva. *AN.-A.*では adhomukho pāyāsaṃ eva bhuñjati（うつむいて粥を食べていた）。

（5）*AN.-A.*では ñatvā の後に theraṃ upasaṃkamitvā（長老に近づき）が挿入されている。

その時、ある行乞の長老が乞食のために歩いていてその家に入った。ヴィサーカーは舅を扇ぎながら立っていたが、その長老を見て「舅に告げるには〔今は〕適当ではない」と〔考え〕、舅がその長老を見るように退いて立った。しかし、ミガーラ長者は愚かにも、長老を見ても見えないふりをし、顔をうつむけて食べているばかりであった。ヴィサーカーは「長老を見ても、私の舅は気にかけない」と知り、「大徳よ、お通りください（他所でお求めください）。私の舅は古い物を食べていますので」と言った。

D so nigaṇṭhehi kathitakāle adhivāsetvāpi nisinno "purāṇaṃ khādatī" ti vuttakkhaṇe yeva hatthaṃ apanetvā, "imaṃ pāyāsaṃ ito nīharatha, etaṃ imasmā gehā nikkaḍḍhatha, ayaṃ kho maṃ evarūpe(1) maṅgalakāle asucikhādakaṃ nāma karotī" ti āha.

（1）底本は evarūpaṃ とするが、異読によって訂正する。

長者は、ニガンタらに（この嫁を追い出せと）言われても忍受して坐っていたが、「古くなった物を食べている」と言われたとたん、手を下ろし、「この粥をここから片付けなさい。この女をこの家から追い出しなさい。なんとこの女は私のことを、このようなめでたい時に不浄の物を食べる者と呼んだ」と言った。

A so nigaṇṭhehi tāva kathitakāle adhivāsesi, "purāṇaṃ khādatī" ti vuttakkhaṇe yeva pana hatthaṃ apanetvā "imaṃ pāyāsaṃ ito haratha etañ ca imasmā gehā nīharatha. ayaṃ hi maṃ evarūpe maṅgalagehe asucikhādakaṃ nāma karotī" ti āha.

長者は、ニガンタらに（この嫁を追い出せと）言われても忍受したが、「古い物を食べている」と言われたとたん、手を下ろし、「この粥をここから片付けなさい。この女をこの家から連れ出しなさい。なぜならこの女は私のことを、このようなめでたい時に不浄の物を食べる者と呼んだからである」と言った。

D A tasmiṃ kho pana nivesane sabbe va(1) dāsakammakarā visākhāya santakā va ko naṃ hatthe vā pāde vā gaṇhissati, mukhena kathetuṃ(2) samattho pi n atthi.

（1）va. *AN.-A.*は pi とする。

（2）*AN.-A.*では kathetuṃ の後に tāva が挿入されている。

しかし、その家において、下男と使用人たちは全員ヴィサーカーに所属する者たちであったので、誰が彼女の手や足をとらえることができようか。口で言える者さえいなかった。

D visākhā sasurassa kathaṃ sutvā āha: "tāta, na ettaken' eva mayaṃ nikkhamāma,

nāhaṃ tumhehi udakatitthato kumbhadāsī viya ānītā, dharamānakamātāpitunnaṃ dhītaro nāma na ettaken' eva nikkhamanti, eten' eva me kāraṇena pitā idhāgamanakāle aṭṭha kuṭimbike pakkosāpetvā ‘sace me dhītu doso uppajjati sodheyyāthā’ ti vatvā maṃ tesaṃ hatthe ṭhapesi, te pakkosāpetvā mayhaṃ dosaṃ sodhāpethā” ti.

ヴィサーカーは舅の語るのを聞くと、「お義父さま、これだけのことでは私たちは出て行きません。私はお義父さまに、水辺から水くみ女のようにつれてこられたのではありません。父母が健在の娘は、これだけのことでは出て行きません。まさにこの理由により私の父は、私がここに来る時に８人の地主を呼んで、『もし私の娘に過失が生じたら嫌疑を晴らしてください』と言って、私を彼らの手にゆだねたのです。どうか彼らを呼んで私の過失の嫌疑を晴らしてもらってください」と言った。

A tato visākhā sasurassa kathaṃ sutvā āha: “tāta, na ettaken' eva vacanena mayaṃ nikkhamāma, nāhaṃ tumhehi udakatitthato kumbhadāsikā viya ānītā. dharamānakamātāpitunnaṃ dhītaro nāma na ettakena nikkhamanti(1), eten' eva me kāraṇena pitā idhāgamanadivase aṭṭha kuṭumbike pakkosāpetvā ‘sace mama dhītaraṃ upādāya doso uppajjati, sodheyyāthā’ ti vatvā tesaṃ hatthe ṭhapesi. te pakkosāpetvā mayhaṃ dosādosaṃ sodhāpethā” ti.

（1）底本は nikkhamaṇti とするが、誤植であろう。

それからヴィサーカーは舅の語るのを聞くと、「お義父さま、このように言われただけでは私たちは出て行きません。私はお義父さまに、水辺から水くみ女のように連れてこられたのではありません。父母が健在の娘は、これぐらいのことでは出て行きません。まさにこの理由により私の父は、私がここに来る日に８人の地主を呼んで、『もし私の娘に関して過失が生じたら嫌疑を晴らしてください』と言って、彼らの手にゆだねたのです。どうか彼らを呼んで私に過失があるか否か嫌疑を晴らしてもらってください」と言った。

D seṭṭhi “esā kalyāṇaṃ kathetī” ti aṭṭha kuṭumbike pakkosāpetvā, “ayaṃ dārikā maṅgalakāle nisīditvā suvaṇṇapātiyaṃ nirudakapāyāsaṃ paribhuñjantaṃ maṃ ‘asucikhādako’ ti [402] vadatī” ti āha, “imissā dosaṃ āropetvā imaṃ ito gehato(1) nikkaḍḍhathā” ti. “evaṃ kira, ammā” ti. “nāhaṃ evaṃ vadāmi, ekasmiṃ pana piṇḍapātikatthere gharadvāre ṭhite sasuro me appodakaṃ madhupāyāsaṃ paribhuñjanto taṃ na manasikaroti, ahaṃ ‘mayhaṃ sasuro imasmiṃ attabhāve puññaṃ na karoti purāṇapuññam eva khādatī’ ti cintetvā, ‘aticchatha bhante mayhaṃ sasuro purāṇaṃ khādatī’ ti avacaṃ, ettha me ko doso” ti. “natthi, amhākaṃ dhītā yuttaṃ katheti, kasmā kujjhasī” ti?

（1）底本に gehato 欠。異読により補う。

長者は「彼女の言い分は正しい」と〔考え〕、８人の地主を呼ばせて「この小娘は、めでたい時に坐って金の器から乾いた粥を食べている私のことを『不浄の物を食べる者』と言いました」と告げ、〔さらに〕「あなたたちはこの女の過失を挙げて、この女をこの家から追い出して下さい」と〔つづけた。８人の地主が〕「娘さん、本当ですか？」〔と尋

ねると。ヴィサーカーは〕「私はそのようには言っていません。そうではなくて、行乞の長老が家の門に立っているにもかかわらず、私の舅が乾いた蜜粥を食べながらその長老を意にかけませんでしたので、私は『私の舅は今生で善を行わず、ただ〔前生で得た〕古い福徳〔の果〕を食べ尽くすのみだ』と考え、『大徳よ、お通りください（他所でお求めください）。私の舅は古い物を食べていますので』と言ったのです。ここに私に如何なる過失があるのでしょうか？」と〔答えた。８人の地主は〕「〔過失は〕ありません。我等の娘はもっともなことを語っています。あなたはなぜ怒るのですか？」と〔言った〕。

A tato seṭṭhi “kalyāṇaṃ esā kathetī” ti aṭṭha kuṭumbike pakkosāpetvā: “ayaṃ dārikā sattame divase aparipuṇṇe yeva maṅgalagehe nisinnaṃ maṃ ‘asucikhādako’ ti vadatī” ti āha. “evaṃ kira ammā” ti? “tātā mayhaṃ sasuro asuciṃ khāditukāmo bhavissati, ahaṃ pana evaṃ katvā na kathemi, ekasmiṃ pana piṇḍapātikatthere gharadvāre ṭhite ayaṃ appodakamadhupāyāsaṃ bhunjanto na taṃ manasikaroti, ahaṃ iminā kāraṇena ‘aticchatha bhante, mayhaṃ sasuro imasmiṃ attabhāve puññaṃ na karoti, porāṇakaṃ puññaṃ khādatī’ ti ettakaṃ kathayin” ti āha. “ayya, idha doso n' atthi, amhākaṃ dhītā kāraṇaṃ katheti, tvaṃ kasmā kujjhasī” ti?

それから長者は「彼女の言い分は正しい」と〔考え〕、８人の地主を呼ばせて、「この小娘はまだ７日目が過ぎないうちに、めでたい家の中に坐っていた私のことを『不浄の物を食べる者』と呼んだのです」と言った。〔８人の地主が〕「娘さん、本当ですか？」と〔尋ねると、ヴィサーカーは〕「みなさん、私の舅は〔来世には〕不浄の物を好んで食べる者になるかも知れませんが、私はそのような意味で言うのではありません。一人の行乞の長老が家の門に立っているにもかかわらず、この方は乾いた蜜粥を食べながらその長老を意にかけませんでしたので、この理由で私は『大徳よ、お通りください（他所でお求めください）。私の舅は今生で善を行わず、〔前生で得た〕古い福徳を食べ尽くしているのです』とこれだけのことを言いました」と述べた。〔８人の地主は〕「大姉よ、ここに過失はありません。我等が娘は理由を述べました。なぜあなたは怒るのですか？」と〔言った〕。

D “ayyā, esa tāva doso mā hotu, ayaṃ pana ekadivasaṃ majjhimayāme dāsīdāsaparivutā pacchāgehaṃ agamāsī” ti. “evaṃ kira ammā” ti. “tātā, nāhaṃ aññena kāraṇena gatā, ‘imasmiṃ pana gehe ājānīyavaḷavāya vijātāya saññam pi akatvā nisīdituṃ nāma ayuttan’ ti daṇḍadīpikā gāhāpetvā dāsīhi saddhiṃ gantvā vaḷavāya vijātaparihāraṃ kārāpesiṃ’ ti. “ayya amhākaṃ dhītā tava gehe dāsīhi pi akattabbakammaṃ karoti, tvaṃ ettha kiṃ dosaṃ passasī” ti.

〔ミガーラ長者は〕「旦那様方、これは過失ではないとしても、しかし、この女はある日、〔夜の〕中更に下女と下男に囲まれて家の後ろに行ったのです」と〔告げた〕。〔８人の地主が〕「娘さん、本当ですか？」と〔尋ねると、ヴィサーカーは〕「みなさん、私は他に理由があって行ったのではありません。この家で善種の雌馬がお産しました時に『気にもかけずに坐っているというのは適当ではないでしょう』と〔考えて〕、松明を持たせ、下女とともに行って、雌馬のお産の世話をさせたのです」と〔答えた。８人の地主

は〕「旦那、我等が娘はお宅では下女ですらしない仕事をしています。あなたはここに何の過失を見るのですか？」と〔言った〕。

A “ayyā, eso tāva doso mā hotu, ayaṃ pana dārikā āgatadivase yeva mama putte saññaṃ akatvā(1) attano ruccanaṭṭhānaṃ agamāsī” ti. “evaṃ kira ammā” ti. “tātā, nāhaṃ ruccanaṭṭhānaṃ gacchāmi, imasmiṃ pana gehe ājānīyavaḷavāya vijātāya ‘saññam pi akatvā nisīdanaṃ nāma ayuttan’ ti daṇḍadīpikā gāhāpetvā dāsīhi parivutā tattha gantvā vaḷavāya vijātaparihāraṃ kārāpesin” ti. “ayya, amhākaṃ dhītā tava gehe dāsehi pi akattabbakammaṃ akāsi, tvaṃ ettha kaṃ dosaṃ passasī” ti?

（1）akatvā. 底本 katvā を異読によって訂正する。

ミガーラ長者は「旦那様方、これは過失ではないとしても、この小娘はちょうどやって来た日に、私の息子に気がねせず自分の好む場所に行きました」と〔告げた〕。〔８人の地主が〕「娘さん、本当ですか？」と〔尋ねると、ヴィサーカーは〕「みなさん、私は自分の好む場所に行ってはおりません。この家で善種の雌馬がお産しました時に、「気にもかけずに坐っているのは適当ではないでしょう」と〔考えて〕、松明を持たせ、下女に囲まれてそこに行き、雌馬のお産のお世話をさせたのです」と〔答えた。８人の地主は〕「旦那、我等が娘はお宅では下女ですらしない仕事をしています。あなたはここに如何なる過失を見たのですか」と〔言った〕。

［17］10 項目の教誡の意味内容：*DhA.*（vol. I p.402,l.17～p.406,l.15）；*AN.-A.*（vol. I p.414,l.4～p.417,l.5）

D “ayyā idhā pi tāva doso mā hotu, imissā pana pitā idhāgamanakāle imaṃ ovadanto gūḷhapaṭicchanne dasa ovāde adāsi, tesaṃ atthaṃ na jānāmi, tesaṃ me atthaṃ kathetu. imissā [403] pana pitā ‘antoaggi bahi na nīharitabbo’ ti āha; sakkā nu kho amhehi ubhato paṭivissakagehānaṃ aggiṃ adatvā vasitun” ti. “evaṃ kira, ammā” ti. “tāta mayhaṃ pitā na etaṃ sandhāya kathesi idaṃ pana sandhāya kathesi: ‘amma tava sasurasāmikānaṃ aguṇaṃ disvā bahi tasmiṃ tasmiṃ gehe ṭhatvā mā kathesi, etena hi agginā sadiso aggi nāma natthī (1)’ ti.

（1）底本は evarūpo hi aggi nāma natthī ti とする。異読によれば evarūpo hi aggisadiso aggi nāma natthī ti となるが、次の段の D にでる同様の文章にならう。

〔ミガーラ長者は〕「旦那様方、ここにも過失がないとしても、この女の父親は、〔彼女が〕ここに来る時に、彼女を訓戒し、秘密に隠された 10 項目の教誡を与えました。私はそれらの教誡の意味を知りません。彼女にそれらの教誡の意味を私に説明してほしいです。この女の父親は『内の火を外に持ち出してはならない』（①）と言いました。私たちは両隣の家に火を与えずにいられるでしょうか」と〔告げた。８人の地主が〕「娘さん、本当ですか」と〔尋ると、ヴィサーカーは〕「みなさん、私の父はそのような意味で言ったのではありません。そうではなくて、私の父はこのような意味で言ったのです。『娘よ、お前の舅と夫に非徳を見たからといって、外の家々にあって〔それを〕語ってはならない。なぜなら、この火に匹敵する火はないからだ』と〔いう意味です〕」と〔答えた〕。

A ayyā, esa tāva guṇo hotu, imissā pana pitā idhāgamanadivase ovādaṃ dento

‘anto-aggi bahi na nīharitabbo’ ti āha, kiṃ pana sakkā amhehi ubhato paṭivissakagehānaṃ aggiṃ adatvā vasitun” ti? “evaṃ kira ammā” ti? “tātā, mayhaṃ pitā na etaṃ aggiṃ upādāya kathesi, yā pana antonivesane sassu-ādīnaṃ mātugāmāraṃ rahassakathā uppajjanti, sā dāsidāsānaṃ na kathetabbā, evarūpā hi kathā vaḍḍhamānā kalahāya saṃvattati, idaṃ sandhāya mayhaṃ pitā kathesi tātā” ti. 〔ミガーラ長者は〕「みなさん、これは徳であるとしても、この女の父親は〔彼女が〕ここに来る日に〔彼女に〕教誡を与えながら『内の火を外に持ち出してはならない』（①）と言いました。私たちは両隣の家に火を与えずにいることができますか」と〔言った。８人の地主が〕「娘さん、本当ですか？」と〔尋ねると、ヴィサーカーは〕「みなさん、私の父はその火のことを言っているのではありません。家の中で姑などに関する内緒話が生じたら、それを下男下女に語ってはならないということです。なぜならそのような話は広まりながらもめごとを引き起こすからです。みなさん、私の父はこのことを述べたのです」と〔答えた〕。

D “ayyā etaṃ tāva evaṃ hotu, imissā pana pitā ‘bāhirato aggi na anto pavesetabbo’ ti āha, kiṃ sakkā amhehi antoaggimhi nibbute bāhirato aggiṃ anāharitun” ti. “evaṃ kira ammā” ti. “tātā mayhaṃ pitā na etaṃ sandhāya kathesi, idaṃ pana sandhāya kathesi: sace paṭivissakagehesu itthiyo vā purisā vā sassu-sasura-sāmikānaṃ aguṇaṃ kathenti tehi kathitaṃ āharitvā ‘asuko nāma tumhākaṃ evam evañ ca aguṇaṃ kathetī’ ti puna mā katheyyāsīti. etena hi agginā sadiso aggi nāma natthī” ti.

〔ミガーラ長者は〕「旦那様方、それはそれでよしとしましょう。けれども、この女の父親は『外から火を内に持ち込んではならない』（②）と言いました。私たちは内の火が消えたら外から火を持ち込まないでいられますか？」と〔告げた。８人の地主が〕「娘さん、本当ですか？」と〔尋ねると、ヴィサーカーは〕「みなさん、私の父はそのようなことを言っているのではなく、このようなことを言うのです。『もし隣の家の下女あるいは下男が、姑や舅や夫の非徳を語るならば、彼らが語ったことを持ってきて、誰々があなたたちのことをこのように話していますと再び語ってはならない。なぜなら、この火に匹敵する火はないからだ』〔ということです〕」と〔答えた〕。

A “ayyā etaṃ tāva evaṃ hotu, imissā pitā ‘bāhirato aggi na anto pavesetabbo’ ti āha, kiṃ sakkā amhehi anto-aggimhi nibbute bāhirato aggiṃ anāharitun” ti? “evaṃ kira ammā” ti. “mayhaṃ pitā etaṃ aggiṃ sandhāya na kathesi, yaṃ pana dosaṃ(1) dāsakammakārehi kathitaṃ hoti, taṃ antomānusakānaṃ na kathetabbaṃ ...pe...

（1）異読によって補う。

〔ミガーラ長者は〕「旦那様方、それはそれでよしとしましょう。けれども、この女の父親は『外から火を内に持ち込んではならない』（②）と言いました。私たちは内の火が消えたら外から火を持ち込まないでいられますか？」と〔告げた。８人の地主が〕「娘さん、本当ですか？」と〔尋ねると、ヴィサーカーは〕「みなさん、私の父はその火のことを言っているのではありません。『下男や使用人が語る過失を家内の人々に語ってはならない』。〔なぜならそのような話は広まりながらもめごとを引き起こすからです。みなさ

ん、私の父はこのことを述べたのです〕」。

D evaṃ imasmim pi kāraṇe sā niddosā va ahosi, yathā ca ettha, evaṃ sesesu pi. tesu pana ayam adhippāyo: yam pi hi tassā pitarā “ye dadanti tesaṃ yeva dātabban” ti vuttaṃ yācitaṃ upakaraṇaṃ gahetvā ye va paṭidenti, tesaṃ yeva dātabban” ti sandhāya vuttaṃ;

このように、この理由によって、彼女は過失なしとなった。ここでと同様に残りの項目においても〔過失なしとなった〕。残りの項目において以下がその意味である。彼女の父が「ものをくれる人にだけものを与えなさい」（③）と言ったのは、「求めて資具を借りて後で返してくれる人にだけ、〔資具を〕貸してあげなさい」ということを言うのである。

A yam pi tena “ye dadanti, tesaṃ yeva dātabban” ti vuttaṃ, “taṃ yācitakaṃ upakaraṇaṃ gahetvā ye va paṭidenti, tesaṃ yeva dātabban” ti sandhāya vuttaṃ.

彼（ダナンジャヤ）が「ものをくれる人にだけものを与えなさい」（③）と言ったのは、「求めて資具を借りて後で返してくれる人にだけ、〔資具を〕貸してあげなさい」ということを言ったのである。

D A “ye na dentī(1)” ti idam pi ye yācitakaṃ gahetvā(2) na paṭidenti, tesaṃ na dātabba” ti sandhāya vuttaṃ(3); “dadantassā pi adadantassā pi dātabban” ti idaṃ pana daḷiddesu(4) [404] ñātimittesu sampattesu te(5) paṭidātuṃ sakkontu vā mā vā dātum eva vaṭṭatī ti sandhāya vuttaṃ; “sukhaṃ nisīditabban” ti idaṃ pi sassu-sasura-sāmike(6) disvā vuṭṭhātabbaṭṭhāne(7) nisīdituṃ na vaṭṭatī ti sandhāya vuttaṃ; “sukhaṃ bhuñjitabban” ti idaṃ pana sassu-sasura-sāmikehi puretaraṃ(8) abhuñjitvā te parivisitvā sabbehi laddhāladdhaṃ ñatvā pacchā sayaṃ bhuñjituṃ vaṭṭatī ti sandhāya vuttaṃ; “sukhaṃ nipajjitabban” ti idaṃ pi sassu-sasura-sāmikehi puretaraṃ sayanaṃ āruyha na nipajjitabbaṃ(9), tesaṃ kattabbayuttakaṃ(10) vattapaṭivattaṃ katvā pacchā sayaṃ nipajjituṃ yuttaṃ ti idaṃ(11) sandhāya vuttaṃ; “aggi paricaritabbo” ti idaṃ pana sassum pi sasuraṃ pi sāmikaṃ pi aggikkhandhaṃ viya uragarājānaṃ viya ca katvā passituṃ vaṭṭatī ti sandhāya vuttaṃ(12);

(1) ‘tesaṃ na dātabbaṃ’が省略されている。
(2) idam pi ye yācitakaṃ gahetvā. *AN.-A.* は idam pi yācitakaṃ upakaraṇaṃ gahetvā とする。
(3) *AN.-A.*ではここに‘ti sandhāya vuttaṃ’（ということを言ったのである）が欠。
(4) daḷiddesu. *AN.-A.*は duggatakesu とする。
(5) *AN.-A.*は te が欠。
(6) *AN.-A.*は sassu-sasure（姑と舅）とし、sāmika（夫）が欠。
(7) vuṭṭhātabbaṭṭhāne. *AN.-A.*は uṭṭhātabbaṭṭhāne とする。
(8) *AN.-A.*では puretaraṃ の後に eva が挿入され、puretaram eva とする。
(9) *DhA.*の底本は na uppajjitabbaṃ とするが、*AN.-A.*の na nipajjitabbaṃ に従って訂正する。‘uppajjitabbaṃ’では読解不能である。
(10) kattabbayuttakaṃ. *AN.-A.*は kātabbayuttakaṃ.
(11) idaṃ. *AN.-A.*は imaṃ とする。
(12) vaṭṭatī ti sandhāya vuttaṃ. *AN.-A.*は vaṭṭati ammā ti idaṃ sandhāya vuttan ti とす

る。

「ものをくれない人に〔ものを与えてはならない〕」（④）とは、これも「求めて借りても返さない人には貸してはならない」ということを言ったのである。「ものをくれる人にも、くれない人にも、与えなさい」（⑤）とは、しかし「貧しい親類や友人が到来した時には、彼らが返すことができてもできなくても、貸すのがよい」ということを言ったのである。「安楽に坐りなさい」（⑥）とは、これも「姑、舅、夫を見たら、立つべきであり、坐っていてはならない」ということを言ったのである。「安楽に食べなさい」（⑦）とは、これも「姑、舅、夫に先んじて食べることをせず、彼らに給仕して皆に食が配分されたかどうかを知った後に自身が食べるのがよい」ということを言ったのである。「安楽に寝なさい」（⑧）とは、これも「姑、舅、夫に先んじて寝台にのって横になるべきではなく、彼らになされるに相応しい種々の務めをなしてから後に自身が寝るのがよい」ということを言ったのである。「火に奉仕しなさい」（⑨）とは、これも「姑も、舅も、夫も、大火のように、蛇の王のように見るのがよい」ということを言ったのである。

D “antodevatā namassitabbā” ti idaṃ sassuñ ca sasurañ ca sāmikañ ca devataṃ viya katvā daṭṭhuṃ vaṭṭatī ti sandhāya vuttaṃ. evaṃ seṭṭhī imesaṃ dasa-ovādānaṃ atthaṃ sutvā paṭivacanaṃ apassanto adhomukho nisīdi.

「内の神々を拝みなさい」とは、これは「姑と舅と夫とを神のように見なすのがよい」ということを言ったのである。このように、長者はそれらの 10 項目の教誡の意味を聞くと返す言葉も見つからず、うつむいて坐っていた。

A “ete tāva ettakā guṇā honti, imissā pana pitā antodevataṃ namassāpeti, imassa ko attho” ti? “evaṃ kira ammā” ti? “āma tātā(1), evam pi hi me pitarā idaṃ sandhāya vuttaṃ: amma āveṇikagharāvāsaṃ vasanakālato paṭṭhāya attano gharadvāraṃ sampattaṃ pabbajitaṃ disvā yaṃ ghare khādanīyaṃ bhojanīyaṃ atthi, tato pabbajitānaṃ datvā va khādituṃ vaṭṭatī” ti. atha naṃ te āhaṃsu: tuyhaṃ pana mahāseṭṭhi pabbajite disvā adānam eva ruccati maññe ti. so aññaṃ paṭivacanaṃ apassanto adhomukho nisīdi.

（1）底本は āma tātā ti とするが‘ti’を削除する。不要である。

〔ミガーラ長者は〕「これらがそのような徳であるとしても、しかし、この女の父親は内の神を礼拝させます。これにはどのような意味があるのでしょう」と〔言った。８人の地主が「娘さん、本当ですか？」と〔尋ねると、ヴィサーカーは〕「みなさん、はい、そのとおりです。なぜなら、前と同様に、私の父がこれについて言っていますのは『娘よ、一家をかまえた時以降は（義父が家長でなくなった以降は）、自身の家の門にやってきた出家者を見たら、家に硬食と軟食があればそこから〔一部を〕出家者たちに施して後になってやっと、〔自身が〕食べるのがよい」と〔いうことです〕。そこで８人の地主は長者に言った。「大長者よ、確かにあなたは出家者たちを見ても、施そうとしません」。長者は他に返す言葉も見つからず、うつむいて坐っていた。

D atha naṃ kuṭimbikā “kiṃ seṭṭhī añño pi amhākaṃ dhītu doso atthī” ti pucchiṃsu. “natthi, ayyā” ti. “atha kasmā naṃ niddosaṃ akāraṇena gehā nikkaḍḍhāpesī” ti.

そこで地主たちが長者に「長者よ、他にも我等が娘に過失がありますか」と〔問うと、

ミガーラ長者は〕「旦那様方、ございません」と〔答えた〕。〔８人の地主は「それでは、どうして過失のない彼女を、理由なくして家から追い出すのでしょうか？」と〔尋ねた〕。

A atha naṃ kuṭumbikā “kiṃ(1) seṭṭhi añño pi amhākaṃ dhītu doso atthī” ti pucchiṃsu. “natthi, ayyā” ti. “kasmā pana taṃ niddosaṃ akāraṇā gehato nīharāpesī” ti?

（1）底本の pi を異読に従い kiṃ に訂正する。

そこで地主たちが長者に、「長者よ、他にも我等が娘に過失がありますか」と〔問うと、ミガーラ長者は〕「旦那様方、ございません」と〔答えた〕。〔８人の地主は「それでは、どうして過失のない彼女を、理由なくして家から連れ出すのでしょうか？」と〔尋ねた〕。

D evaṃ vutte visākhā āha: “tātā, kiñcāpi mayhaṃ sasurassa vacanena paṭhamam eva gamanaṃ(1) yuttaṃ, pitā pana me āgamanakāle mama dosādosasodhanatthāya maṃ tumhākaṃ hatthe ṭhapesi tumhehi ca me niddosabhāvo ñāto, idāni ca mayhaṃ gantuṃ yuttan” ti “dāsidāse yānādīni sajjāpethā” ti āṇāpesi.

（1）底本では gamaṇaṃ のあとに na があるが異読により削除する。

このように言われた時にヴィサーカーは、「みなさん、私は舅の言葉にしたがってすぐに〔ここから〕出て行くべきでしたでしょうが、私が〔ここに〕来る時に父が、私の過失の嫌疑を晴らすために、私をあなた方の手にゆだねました〔のですぐに出て行くわけにはまいりませんでした〕。そしてあなた方に私に過失がないことをご理解いただけましたので、今、私はここを出て行くのがよい〔と思います〕」と〔言って〕、「下女・下男に乗り物などを用意させなさい」と命じた。

A tasmiṃ khaṇe, visākhā āha: “paṭhamaṃ tāva mayhaṃ mama sasurassa vacanena gamanaṃ yuttaṃ, mayhaṃ pana āgamanadivase mama dosādosaṃ sodhanatthāya mama pitā tumhākaṃ hatthe ṭhapetvā adāsi, idāni mayhaṃ gantuṃ sukhan” ti “dāsidāsayānādīni sajjāni karothā” ti āṇāpesi.

その時ヴィサーカーは、「私は私の舅の言葉にしたがってすぐに〔ここから〕出て行くべきでしたでしょうが、私が〔ここに〕来る日に私の父が、私の過失のあるなしをその嫌疑を晴らすためにあなた方の手にゆだねましたので〔すぐに出て行くわけにはまいりませんでした。しかし〕今や、私は容易に出て行けます」と〔言って〕、「下女・下男や乗り物などを整えなさい」と命じた。

D A atha naṃ seṭṭhī(1) te kuṭimbike(2) gahetvā, “amma, [405] mayā ajānitvā kathitaṃ khamāhi me(3)”ti āha. “tāta(4) tumhākaṃ khamitabbaṃ tāva khamāmi, ahaṃ pana buddhasāsane aveccappasannassa kulassa dhītā, na mayaṃ vinā bhikkhusaṅghena vattāma, sace mama ruciyā bhikkhusaṅghaṃ paṭijaggituṃ labhāmi, vasissāmī” ti. “amma, tvaṃ yathāruciyā tava samaṇe paṭijaggā” ti āha(5).

（1）seṭṭhī. *AN.-A.*は seṭṭhi とする。

（2）kuṭimbike. *AN.-A.*は kuṭumbike とする。

（3）me. *AN.-A.*は mayhan である。

（4）*AN.-A.*は tāta の後に khamāmi を挿入する。

（5）*AN.-A.*に āha が欠。

そこで、長者はその地主たちをとどめてから、彼女に「嫁よ、私は知らずにしゃべったのだ。私のことを許してくれ」と言った。〔ヴィサーカーが〕「お義父さま、あなたの許すべきところは許しますが、しかし、私は仏教に不壊の浄信をもつ家の娘であって、私たちは比丘サンガなくしてはいられません。もし、私の望むままに私が比丘サンガのお世話をできるならとどまりましょう」と〔言うと、ミガーラは〕「嫁よ、おまえはおまえの望むままに沙門たちをお世話しなさい」と言った。

D visākhā dasabalaṃ nimantāpetvā punadivase nivesanaṃ pavesesi. naggasamaṇāpi satthu migāraseṭṭhino gehagamanabhāvaṃ sutvā gantvā gehaṃ parivāretvā nisīdiṃsu. visākhā dakkhiṇodakaṃ datvā “sabbo sakkāro paṭiyādito, sasuro me āgantvā dasabalaṃ parivisatū” ti sāsanaṃ pesesi.

ヴィサーカーは十力者を招待し、翌日に家に招き入れた。裸行沙門たちも、尊師がミガーラ長者の家を訪問することを聞いて、〔そこに〕行き、家を取り囲んで坐った。ヴィサーカーは施し〔をする時に手に注ぐ〕水を注いで、「準備万端がととのいました。私の舅は来て十力者に給仕してください」と伝言を送った。

A tato visākhā dasabalaṃ nimantāpetvā punadivase nivesanaṃ pūrentī buddhappamukhaṃ bhikkhusaṃghaṃ nisīdāpesi. naggaparisā pi satthu migāraseṭṭhino gehaṃ gatabhāvaṃ sutvā tattha gantvā gehaṃ parivāretvā nisīdiṃsu. visākhā dakkhiṇodakaṃ datvā “sabbo sakkāro paṭiyādito, sasuro me āgantvā dasabalaṃ parivisatū” ti sāsanaṃ pesesi.

それからヴィサーカーは十力者を招待し、翌日に家全体を一杯にする〔ほど大勢の〕仏陀を上首とした比丘サンガを坐らせた。裸行者の衆も、尊師がミガーラ長者の家に行ったことを聞いて、そこに行き、家を取り囲んで坐った。ヴィサーカーは施し〔をする時に手に注ぐ〕水を注いで「準備万端がととのいました。私の舅は来て十力者に給仕してください」と伝言を送った。

D atha naṃ āgantukāmaṃ ājīvakā “mā kho tvaṃ gahapati samaṇassa gotamassa santikaṃ gacchā” ti nivāresuṃ. so “suṇhā hi me sayaṃ eva parivisatū” ti pahiṇi. sā buddhappamukhaṃ bhikkhusaṅghaṃ parivisitvā niṭṭhite bhattakicce puna sāsanaṃ pesesi: “sasuro me āgantvā dhammakathaṃ suṇātū” ti.

すると、行こうとする長者に、邪命外道たちは「長者よ、沙門ゴータマのもとに行ってはなりません」と遮った。長者は「私の嫁が自分だけで給仕してください」と使いを遣った。ヴィサーカーは仏陀を上首とする比丘サンガに給仕し、食事が終わった時に、再度「私の舅は来て法話をお聞きください」と伝言を送った。

A so nigaṇṭhānaṃ vacanaṃ sutvā “mama dhītā sammāsambuddhaṃ parivisatū” ti āha. visākhā nānaggarasehi dasabalaṃ parivisitvā niṭṭhite bhattakicce puna sāsanaṃ pahiṇi: “sasuro me āgantvā dasabalassa dhammakathaṃ suṇātū” ti.

長者はニガンタらの言葉を聞いて、「私の娘が正等覚者に給仕してください」と言った。ヴィサーカーは種々のおいしい食べ物を、仏陀を上首とした比丘サンガに給仕し、食事が終わった時に再度「私の舅はいらして十力者の説法をお聞きください」と伝言を送った。

D atha naṃ “idāni agamanaṃ nāma ativiya ayuttan” ti dhammaṃ sotukāmatāya gacchantaṃ puna te āhaṃsu: “tena hi samaṇassa gotamassa dhammaṃ suṇanto bahisāṇiyaṃ nisīditvā suṇāhī” ti, puretaraṃ ev' assa gantvā sāṇiṃ parikkhipiṃsu. so gantvā bahisāṇiyaṃ nisīdi.

そこで、「今行かないのは極めてよくないであろう」と〔考えて〕法を聞こうと赴くミガーラ長者に、再び彼らは「そういうことなら、沙門ゴータマの説法を聞く時、あなたは幕の外に坐って聞きなさい」と言って、長者に先んじて行って、幕をはりめぐらした。ミガーラ長者は行って、幕の外に坐った。

A atha naṃ “idāni agamanaṃ nāma ativiya akāraṇan” ti dhammakathaṃ sotukāmatāya gacchantaṃ naggasamaṇā āhaṃsu: “samaṇassa gotamassa dhammaṃ suṇanto bahisāṇiyaṃ nisīditvā suṇāhī” ti. puretaram eva ca gantvā sāṇiṃ parikkhipiṃsu migāraseṭṭhi gantvā bahisāṇiyā va nisīdi.

そこで、「今行かないのは極めて理にかなわないであろう」と〔考えて〕法話を聞こうと赴くミガーラ長者に裸形沙門らは、「沙門ゴータマの説法を聞く時、あなたは幕の外に坐って聞きなさい」と言って、前もって行って幕をはりめぐらした。ミガーラ長者は行って、天幕の外に坐った。

D satthā “tvaṃ bahisāṇiyaṃ vā nisīda parakuḍḍe vā parasele vā paracakkavāḷe vā pana nisīda, ahaṃ buddho nāma sakkomi taṃ mama saddaṃ sāvetun” [406] ti mahājambuṃ khandhe(1) gahetvā cālento viya amatavassaṃ vassanto viya dhammaṃ desetuṃ anupubbikathaṃ ārabhi.

(1) 底本は mahājambukkhandhe とするが訂正する。

尊師は「あなたは幕の外に坐りなさい。あるいは壁の向こうに、あるいは岩山の向こうに、あるいは鉄囲山の向こうに坐りなさい。〔どこに坐ろうとも〕私、すなわち仏陀は、あなたに私の声を聞かせることができる」と〔言って〕、大きなジャンブ樹の幹をとらえて揺らすように、甘露の雨を降らすように、法を示すために次第説法を始めた。

A tathāgato “tvaṃ bahisāṇiyaṃ(1) vā nisīda, parakuḍḍe vā parasele vā paracakkavāḷe vā nisīda, ahaṃ buddho nāma sakkomi taṃ mama saddaṃ sāvetun” ti suvaṇṇavaṇṇaphalaṃ ambarukkhaṃ khandhe gahetvā cālento viya dhammakathaṃ kathesi.

(1) bahisāṇiyaṃ. 底本には bahisāniyā とあるが異読により訂正する。

如来は「あなたは幕の外に坐りなさい。あるいは壁の向こうに、あるいは岩山の向こうに、あるいは鉄囲山の向こうに坐りなさい。〔どこに坐ろうとも〕私、すなわち仏陀は、あなたに私の声を聞かせることができる」と〔言って〕、金色の果実をつけるアンバ樹の幹をとらえて揺らすように、法話を説いた。

D sammāsambuddhe ca pana dhammaṃ desente purato ṭhitāpi pacchato ṭhitāpi cakkavāḷasataṃ cakkavāḷasahassaṃ atikkamitvā ṭhitāpi akaniṭṭhabhavane ṭhitāpi “satthā mañ ñeva oloketi, mayhem eva dhammaṃ desetī” ti vadanti, satthā hi taṃ taṃ olokento viya tena tena saddhiṃ sallapanto viya ca hoti. candūpamā kira

buddhā, yathā cando gagaṇamajjhe ṭhito “mayhaṃ upari cando mayhaṃ upari cando” ti sabbasattānaṃ khāyati, evam eva(1) yattha katthaci(2) ṭhitānaṃ abhimukhe ṭhitā viya khāyanti, idaṃ kira nesaṃ alaṅkatasīsaṃ chinditvā añjitakkhīni uppāṭetvā hadaya-maṃsaṃ ubbattetvā parassa dāsatthāya jālisadise putte kaṇhājināsadisā dhītaro maddisadisā pajāpatiyo pariccajitvā dinnadānassa phalaṃ.

（1）evam eva. 底本には evam evaṃ とあるが異読により訂正する。

（2）yattha katthaci. 底本は katthaci とするが異読により訂正する。

正等覚者が法を説示する時には、〔仏陀の〕前にいても、後ろにいても、百の鉄囲山、千の鉄囲山の向こうにいても、アカニッタ天にいても、人々は「尊師は私だけを見ている。私にだけ法を説示している」と語る。なぜなら尊師は彼らひとりひとりを見ているかのよう、ひとりひとりと共に語るかのようであるから。伝え聞くところでは、諸仏は月に喩えられる。月は天空の真ん中にありながら、一切の衆生に「私の上に月がある。私の上に月がある」と思えるように。ちょうどそのように、どこにいる人にも、諸仏が自分の面前にあるように思える。これは、諸仏が〔前生に菩薩として〕飾りをつけた頭を切り、くまどりをした目をえぐり、心臓の肉を引き抜き、他人の奴隷としてジャーリのような息子たちを、カンハージナーのような娘らを、マッディーのような妻を捨てて(1)、布施をなした果報であるそうだ。

（1）ジャーリ、カンハージナー、マッディーはそれぞれヴェッサンタラの息子、娘、妻の名である。

［18］ミガーラマーターと呼ばれるヴィサーカー：*DhA.*（vol. I p.406,l.15～p.408,l.1）；*AN.-A.*（vol. I p.417,ll.5～10）

D migāraseṭṭhī pi tathāgatassa desanaṃ vinivaṭṭento bahisāṇiyaṃ nisinno va sahassa - nayapaṭimaṇḍite sotāpattiphale patiṭṭhāya acalasaddhāya samannāgato tīsu saraṇesu nikkaṅkho hutvā sāṇikaṇṇaṃ ukkhipitvā gantvā suṇisāya thanaṃ mukhena gahetvā, “tvaṃ me ajja paṭṭhāya mātā” ti taṃ mātuṭṭhāne(1) ṭhapesi. tato paṭṭhāya migāramātā nāma jātā. [407] pacchābhāge puttaṃ labhitvāpi ‘migāro’ ti 'ssa nāmaṃ akāsi.

（1）mātuṭṭhāne. 底本には mātiṭṭhāne とあるが異読により訂正する。

ミガーラ長者も、如来の〔法の〕説示を反芻しながら、幕の外に坐っていたが、一千の方法に飾られた預流果に確立し(1)、不動の信仰を具え、三帰依処に対して疑いを離れ、幕のふちを持ち上げて〔中に入って〕行き、嫁の胸に口をあてて、「あなたは今日から私の母です」と言って、ヴィサーカーを母とした。それ以後「ミガーラマーター」（ミガーラの母）の名が生じた。後に彼女が息子を産んでも、息子の名を「ミガーラ」とした。

（1）浪花宣明『サーラサンガハの研究』平楽寺書店、1998 年、p.221

A desanāpariyosāne seṭṭhi sotāpattiphale patiṭṭhāsi. sāṇiṃ ukkhipitvā satthu pāde pañcapatiṭṭhitena vanditvā satthu santike yeva “tvaṃ amma ajja paṭṭhāya mama mātā” ti visākhaṃ attano mātuṭṭhāne(1) ṭhapesī” ti. tato paṭṭhāya visākhā migāramātā nāma jātā.

（1）mātuṭṭhāne. 底本には mātiṭṭhāne とあるが異読により訂正する。

説法の終わりに、ミガーラ長者は預流果に確立した。〔彼は〕幕を持ち上げ、尊師の足に五体投地で敬礼し、尊師のもとで「嫁よ、あなたは今日から私の母です」と〔言って〕、ヴィサーカーを自分の母とした。それ以後、ヴィサーカー・ミガーラマーターの名が生じた。

D mahāseṭṭhī suṇisāya thanaṃ vissajjetvā gantvā bhagavato pādesu patitvā pāde pāṇihi ca parisambahanto mukhena ca paricumbanto “migāro 'haṃ bhante” ti tikkhattuṃ nāmaṃ sāvetvā, “ahaṃ, bhante ettakaṃ kālaṃ ettha nāma dinnaṃ mahapphalan ti na jānāmi, idāni me suṇisaṃ nissāya ñātaṃ, sabba-apāyadukkhā mutto 'mhi, suṇisā me imaṃ gehaṃ āgacchantī atthāya hitāya āgatā” ti vatvā imaṃ gātham āha:

“so 'haṃ ajja pajānāmi yattha dinnaṃ mahapphalaṃ,
atthāya vata me bhaddā suṇisā gharam āgatā” ti.

visākhā punadivasatthāya pi satthāraṃ nimantesi. ath' assā punadivase pi sassū sotāpattiphalaṃ pattā tato paṭṭhāya taṃ gehaṃ sāsanassa vivaṭadvāraṃ ahosi.

大長者は嫁の胸から離れ、行って世尊の足に頭をつけて、世尊の足を手でさすりながら口づけしつつ「大徳よ、私はミガーラです」と３回名のり、「大徳よ、私は今まで、ここ（仏と比丘サンガ）に布施されたものが大果〔を生む〕ことを知りませんでしたが、今、私の嫁のおかげで知りました。私はすべての悪趣の苦から解放されました。私の嫁がこの家に来たのは、利のため、益のために来てくれたのです」と言って、以下の偈を唱えた。

私は、今日、どこに布施されたものが大果を生むかを知った。私の賢い嫁は、実に利益のために我が家にやって来た。

と。

ヴィサーカーは翌日にも尊師を招待した。当日には彼女の姑も預流果を得て、それ以後、その家は仏教に門戸が開かれるようになった。

D tato seṭṭhi cintesi: “bahūpakārā me suṇisā, paṇṇākāram assā karissāmi. etissā hi bhāriyaṃ pasādhanaṃ niccakālaṃ pasādhetuṃ na sakkā, sallahukaṃ assā divā ca ratto ca sabbiriyāpathesu pasādhanayoggaṃ pasādhanaṃ kāressāmī” ti satasahassag-ghaṇakaṃ ghanamaṭṭhakaṃ nāma pasādhanaṃ kāretvā tasmiṃ niṭṭhite buddhapamukhaṃ bhikkhusaṅghaṃ nimantetvā sakkaccaṃ bhojetvā visākhaṃ soḷasahi gandhodakaghaṭehi nahāpetvā satthu sammukhe ṭhapetvā pasādhetvā satthāraṃ vandāpesi. satthā anumo[408]danaṃ katvā vihāram eva gato.

それから長者は「嫁は私にたいへんな助けになった。彼女に贈り物をしよう。なぜなら彼女の重い〔大蔓草型〕装身具は、常時身に帯びることができない。軽くて、彼女が昼も夜もすべての威儀路（行住坐臥）に際して身に帯びるに適う装身具を作らせよう」と考えて、10 万金に価するガナマッタカ（堅い絹？）という装身具を作らせ、それが完成すると、仏陀を上首とした比丘サンガを招待し、うやうやしく食をふるまい、ヴィサーカーを 16 種の香水の瓶で沐浴させ、尊師の面前に立たせ、装身具をつけさせ、尊師を礼拝させ

た。尊師は随喜してから、精舎に戻った。

［19］ヴィサーカーの子と孫の人数：*DhA.*（vol. I p.408,l.1～p.408,l.17）

D visākhāpi tato paṭṭhāya dānādīni puññāni karontī satthu santikā aṭṭha vare labhitvā gaganatale candalekhā viya paññāyamānā puttadhītāhi vuḍḍhiṃ pāpuṇi. tassā kira dasa puttā dasa dhītaro ca ahesuṃ, tesu tesu ekekassa dasa dasa puttā ca dhītaro ca ahesuṃ, tesu tesu pi ekekassa dasa dasa puttā ca dhītaro cā ti. evam assā putta-natta-panatta-santānavasena pavattāni vīsādhikāni cattāri satāni aṭṭha ca pāṇasahassāni ahesuṃ,

ヴィサーカーもそれ以後、布施などの善を行いながら、尊師から８願を許され (1)、天空の細い三日月が〔満ちて〕はっきり見えるようになっていくように、息子と娘によって繁栄を得た。伝え聞くところでは、ヴィサーカーには 10 人の息子と 10 人の娘がいた。ひとりひとりの息子や娘に、10 人の息子と 10 人の娘がいた。そのひとりひとりの孫にもまた 10 人の息子と 10 人の娘があったという。このようにしてヴィサーカーには、子・孫・曾孫の継承によって 8420 人 (2) の子孫があった。

（1）８願を許されたことについては【1】の［7］参照

（2）子が 20 人、孫が 400 人、曾孫が 8000 人の計算になる。【4】の［8］と対応する。また【3】の［3］参照。

D sayaṃ vīsaṃ vassasataṃ aṭṭhāsi, sīse ekaṃ pi phalitaṃ nāma nāhosi niccaṃ soḷasavassuddesikā viya ahosi, taṃ putta-natta-panatta-parivāraṃ vihāraṃ gacchantiṃ disvā, “katamā ettha visākhā” ti paṭipucchitāro(1) honti, ye gacchantiṃ passanti, “idāni thokaṃ gacchatu, gacchamānā va no āyyā sobhatī” ti cintenti, ye ṭhitaṃ nisinnaṃ nipannaṃ passanti “idāni thokaṃ nipajjatu nipannā va no ayyā sobhatī” ti cintenti. iti sā “catūsu iriyāpathesu nāma na sobhatī” ti na vattabbā ahosi;

（1）底本は paṭipucchitāro na とするが異読により na を削除する。

彼女自身は 120 歳 (1) になっても頭には一本の白髪もなく、常に 16 歳のようであったので、子・孫・曾孫に囲まれて精舎に向うヴィサーカーを見て、「この中のどの人がヴィサーカーですか？」と質問する者があった。歩いている〔ヴィサーカー〕を見る人は「今もう少し歩いてもらおう。我等が大姉は歩いているのがきれいだ」と思う。立ち姿、坐った姿〔を見ても同様で〕、横になった姿を見た人は、「今もう少し横になっていてもらおう。我等が大姉は横になっているのがきれいだ」と思う。このように彼女は「〔行住坐臥の〕四威儀路においてきれいではない」といわれない女性であった。

（1）【4】の［10-1］参照

［20］五象力をもつヴィサーカー：*DhA.*（vol. I p.408,l.17～p.409, l.13）

D pañcannaṃ kho pana hatthīnaṃ thāmaṃ dhāreti. rājā “visākhā kira pañcannaṃ [409] hatthīnaṃ thāmaṃ dhāretī” ti sutvā tassā vihāraṃ gantvā dhammaṃ sutvā āgamanavelāya thāmaṃ vīmaṃsitukāmo hatthiṃ vissajjāpesi, so soṇḍaṃ ukkhipitvā

visākhaṃ abhimukho agamāsi. tassā parivāritthiyo pañcasatā ekaccā palāyiṃsu, ekaccā naṃ parissajjitvā “kiṃ idan” ti vutte, “rājā kira te ayye thāmaṃ vīmaṃsitukāmo hatthiṃ vissajjāpesī” ti vadiṃsu.

またヴィサーカーは象５頭分の力をもつ。王は「ヴィサーカーは５頭の象の力をもつそうだ」と聞くと、彼女が寺院に行って法を聞いてから帰る時に、〔彼女の〕力をはかろうとして象を放った。象は鼻を上げてヴィサーカーに向かって行った。彼女の 500 人の侍女のうち、ある者は逃げてしまったが、ある者は彼女をかばって、〔ヴィサーカーに〕「これはどうしたことか」と尋ねられると、「大姉よ、王があなた様の力をはかろうと象を放ったのだそうです」と答えた。

D visākhā imaṃ disvā, “kiṃ palāyitena, kathaṃ nu kho taṃ gaṇhissāmī” ti cintetvā, “sace naṃ daḷhaṃ gaṇhissāmi, vinasseyyā” ti dvīhi aṅgulīhi soṇḍāya gahetvā paṭipaṇāmesi. hatthī sandhāretvā saṇṭhātuṃ nāsakkhi, rājaṅgaṇe ukkuṭiko hutvā nipati, mahājano sādhukāraṃ adāsi, sā saparivārā sotthinā gehaṃ agamāsi.

ヴィサーカーはその象を見て、「逃げても無駄。どうやってこの象を捕まえようか」と考え、「もしこの象を私がしっかりとつかんだら死なせてしまうだろう」と〔考え〕、２本の指で〔象の〕鼻をおさえて押しもどした。象はこらえて立っていることができず、王苑の中でしゃがみこんでしまった。多くの人々は賞賛した。彼女は侍女とともに無事に家に帰った。

［21］東園鹿子母講堂建立の由来＊：*DhA.*（vol. I p.409,l.14～p.417,l.16）；*AN.-A.*（vol. I p.417,l.11～p.418,l.19）

＊【3】の［16］［17］、【4】の［1］参照

D tena kho pana samayena sāvatthiyaṃ [410] visākhā migāramātā bahuputtā hoti bahunattā arogaputtā aroganattā abhimaṅgalasammatā va, tāvatakesu puttanatta-sahassesu eko pi antarā maraṇappatto nāma nāhosi, sāvatthivāsino maṅgalesu chaṇesu visākhaṃ paṭhamaṃ nimantetvā bhojenti.

その時、舎衛城においてヴィサーカー・ミガーラマーターは多くの子、多くの孫を有し、みな無病の子、無病の孫であったので、人々から吉祥の人と思われた。数千人もの子・孫の中にひとりとして天寿を全うしないものがなかった。舎衛城の住人はめでたい行事には、第一にヴィサーカーを招待して食事をふるまった (1)。

(1) この記事については【1】の［4-1］参照

D ath' ekasmiṃ ussavadivase mahājane maṇḍitapasādhite dhammassavanāya vihāraṃ gacchante visākhāpi nimantitaṭṭhāne bhuñjitvā mahālatāpasādhanaṃ pasādhetvā mahājanena saddhiṃ vihāraṃ gantvā ābharaṇāni muñcitvā dāsiyā adāsi. yaṃ sandhāya vuttaṃ:

(1) それからある祭日に、多くの人々が美しく着飾って法の聴聞のために精舎に行った時に、ヴィサーカーも招待された所で食事をしてから、大蔓草型装身具を身に帯びて多くの人々とともに精舎に行き、装身具をはずして、下女に預けた。このことついて〔詳細は

以下のように〕言われている。

（1）以下の記事については【1】－［6］参照

D ……tena kho pana samayena sāvatthiyaṃ ussavo hoti, manussā alaṅkatapaṭiyattā ārāmaṃ gacchati, visākhāpi migāramātā alaṅkatapaṭiyattā vihāraṃ gacchati. atha kho visākhā migāramātā ābharaṇāni muñcitvā uttarāsaṅge bhaṇḍikaṃ bandhitvā dāsiyā adāsi: “handa je imaṃ bhaṇḍikaṃ gaṇhāhī” ti. sā kira vihāraṃ gacchantī, “evarūpaṃ mahagghaṃ pasādhanaṃ sīse paṭimukkaṃ yāva pādapiṭṭhiṃ alaṅkaraṇakaṃ alaṅkaritvā vihāraṃ pavisituṃ ayuttan” ti naṃ muñcitvā bhaṇḍikaṃ katvā attano puññen' eva nibbattāya pañcahatthithāmadharāya dāsiyā hatthe adāsi, sā eva gaṇhituṃ sakkoti. tena taṃ āha: “amma imaṃ pasādhanaṃ gaṇha, satthu santikā nivattanakāle pasādhessāmi nan” ti, taṃ pana datvā ghanamaṭṭhapasādhanaṃ pasādhetvā satthāraṃ upasaṅkamitvā dhammaṃ assosi, dhammasavanāvasāne bhagavantaṃ vanditvā uṭṭhāya pakkāmi, sāpi 'ssā dāsī taṃ pasādhanaṃ pamuṭṭhā.

……その時、舎衛城で祭りがあり、人々はきれいに身支度して園林に行った。ヴィサーカー・ミガーラマーターもきれいに身支度して精舎に行った。その時、ヴィサーカー・ミガーラマーターは装身具をはずして上衣に包むと、「さあ、この包みを持ちなさい」と〔言って〕下女に預けた。伝え聞くところでは、ヴィサーカーは精舎に向う時に、「このように高価な装身具を、頭に着けてかかとに届くような飾りを、身に帯びて精舎に入るのはよくない」と〔考えて〕、それをはずして包みにして、下女に手渡した。その下女も自身の功徳のみによって生じた５象力を具えており、その下女だけは〔大蔓草型装身具を〕持つことができた(1)。そのゆえ〔ヴィサーカーは〕その下女に「おまえ、この装身具を持っていなさい。尊師のもとから戻ったら〔また〕それを着けます」と〔言って〕、しかし、それを預けてから、ガナマッタ装身具を着けて尊師に近づき、法を聞いて、法の聴聞が終わると、世尊に礼拝してから起って退いたが、〔その時に〕彼女の下女はその装身具を忘れてしまった。

（1）この大蔓草型装身具は５象力を有する者でなければ持ち上げることができないことを意味する。

D dhammaṃ sutvā pana pakkantāya parisāya sace kiñci pammuṭṭhaṃ hoti taṃ ānandatthero paṭisāmeti iti. so etaṃ divasaṃ mahālatāpasādhanaṃ disvā satthu ārocesi: “bhante visākhā pasādhanaṃ pammussitvā gatā” ti. “ekamantaṃ ṭhapehi ānandā” ti. thero taṃ ukkhipitvā sopānapasse [411] laggetvā ṭhapesi.

会衆が法を聞いてから去った後に、もし、何か忘れ物があれば、それを阿難長老がしまっておくこと〔になっていた〕。阿難長老は、その日、大蔓草型装身具を見つけて尊師に「大徳よ、ヴィサーカーが装身具を忘れて行きました」と告げた。〔釈尊は〕「阿難よ、片付けておきなさい」と〔指示した〕。長老はその装身具を持ち上げ、梯子の段にかけておいた。

D visākhā suppiyāya saddhiṃ “āgantuka-gamika-gilānādīnaṃ kattabbayuttakaṃ jānissāmī” ti antovihāre vicari. tā pana upāsikāyo antovihāre disvā

sappimadhutelādīhi atthikā pakatiyā daharā ca sāmaṇerā ca thālakādīni gahetvā upasaṅkamanti. tasmim pi divase tath' eva kariṃsu.

またヴィサーカーはスッピヤー (1) とともに、「客来比丘と遠行比丘の病んでいる者たちに対してなされるに相応しいことを知りましょう」といって精舎内を回っていた。そうして彼女ら優婆夷を精舎内で見ると、酥や蜜や油などを求める新参の比丘や沙弥らが、おのずと小鉢などを持って近づいてくるのである。その日も彼らは同様にしていた。

（1）スッピヤーは看病者第一といわれる優婆夷である（*AN.* vol. I p. 26）。

D ath' ekaṃ gilānaṃ bhikkhuṃ disvā suppiyā “ken' attho ayyassā” ti pucchitvā “paṭicchādanīyenā” ti vutte, “hotu ayya pesessāmī” ti dutiyadivase kappiyaṃ alabhantī attano ūrumaṃsena kattabbakiccaṃ katvā puna satthari pasādena pakatikasarīra va ahosi.

その時、スッピヤーがひとりの病気の比丘を見て、「聖者様には何がご入用でしょうか？」と伺ったところ、「肉汁です」と言われ、「はい聖者様、私がお送りさせましょう」と〔言って〕、あくる日に浄食 (1) を得ることができず、自分の腿の肉でなすべき義務をなしたが (2) 、尊師に対する浄信によって再びまったく本来の身体となった。

（1）原語 kappiya. ここでは律に許される正しい方法で獲得される食事のことを意味しする。この比丘のために新たに動物を殺して肉を得たのでは布施できない肉になってしまうため、すでに死んでいる動物の肉が必要である。それが得られなかったのである。*Vinaya Bhesajjakkhandhaka*（vol. I p.217）では「既存の肉」（pavattamaṃsa）と明記されている。

（2）スッピヤーは自身の腿の肉を切りとって布施した。*Vinaya Bhesajjakkhandhaka*（vol. I p.216）参照。ただしここでは舎衛城ではなく、バーラーナシーにおいてのこととされている。*AN.-A.*（vol. I p.269）でもスッピヤーはバーラーナシーの人とされる。舎衛城で登場するこの *DhA.*の記事は特殊であろう。

D visākhāpi gilāne ca dahare ca oloketvā aññena dvārena nikkhamitvā vihārūpacāre ṭhitā, “amma pasādhanaṃ āhara pasādhessāmī” ti āha. tasmiṃ khaṇe sā dāsī pammussitvā nikkhantabhāvaṃ ñatvā, “ayye, pamuṭṭh' amhī” ti āha. “tena hi gantvā gaṇhitvā ehi, sace pana mayhaṃ ayyena ānandattherena ukkhipitvā aññasmiṃ ṭhāne ṭhapitaṃ hoti, mā āhareyyāsi, ayyass' eva mayā pariccattan” ti. jānāti kira sā kulamanussānaṃ pamuṭṭhabhaṇḍakaṃ thero paṭisāmetī ti, tasmā evam āha.

ヴィサーカーも病気の比丘と新参の比丘らを見回ってから、〔入ったのとは〕別の門から出て、精舎の近辺で立ち止まり、「おまえ、装身具を出しなさい。身に着けるから」と言った。その瞬間に、その下女は忘れて出てきたことに気づき、「大姉よ、私は忘れました」と言った。〔ヴィサーカーは〕「そういうことなら、行ってとってきなさい。しかしもし、私の聖なる阿難長老がとりあげて別の場所に置いていたら、〔それは〕私が〔阿難〕聖者に捨施したことになるので持ってきてはいけません」と〔言った〕。ヴィサーカーは、良家の人が忘れた財物を阿難長老がしまっておくことを知っていたので、それゆえこのように言ったのだそうだ。

D thero pi taṃ dāsiṃ disvā va “kimatthaṃ āgatāsī” ti pucchitvā, “ayyāya me pasādhanaṃ pammussitvā gat' amhī” ti vutte, “etasmiṃ me sopānapasse ṭhapitaṃ,

gaccha naṃ gaṇhā” ti āha. sā “ayya tumhākaṃ hatthena āmaṭṭhabhaṇḍakaṃ mayhaṃ [412] ayyāya anāharaṇīyaṃ katan” ti vatvā tucchahatthā va gantvā, “kiṃ, ammā” ti visākhāya puṭṭhā tam atthaṃ ārocesi. “amma, nāhaṃ mama ayyena āmaṭṭhabhaṇḍakaṃ pilandhissāmi. pariccattaṃ mayā ayyānaṃ pana paṭijaggituṃ dukkhaṃ taṃ vissajjetvā kappiyabhaṇḍaṃ upanessāmi, gaccha naṃ āharāhī” ti. sā gantvā āhari. visākhā taṃ apilandhitvā kammāre pakkosāpetvā agghāpesi: tehi “nava koṭiyo agghati, kārāpaṇikaṃ pana satasahassan” ti vutte pasādhanaṃ yāne ṭhapāpetvā “tena hi naṃ vikkiṇathā” ti āha.

また阿難長老はその下女を見るや否や、「何のために戻って来たのですか」と尋ねて、〔下女が〕「私の大姉の装身具を忘れて行ってしまいました」と答えると、「私が梯子の段に置きました。さあ、持って行きなさい」と言った。その下女は「聖者様、私の大姉はあなた様の手が触れた財物は持ってきてはいけないものとしました」と言って、空手で去り、「おまえ、どうだった？」とヴィサーカーに聞かれると事の顛末を告げた。〔ヴィサーカーは〕「おまえ、私は私の聖者が触れた財物を〔もはや〕身に着けません。私は捨施しますが、聖者たちには管理が大変なそれを〔一度〕手放させて、浄物として与えよう。さあ、それを持ってきなさい」と言った。下女は行ってとって来た。ヴィサーカーはそれを身に着けることなく、金属細工職人を呼ばせて、鑑定させた。職人に「９億金に価します。職人の技術料は10万金です」と言われて、装身具を車に置かせて「それならこれを売ってください」と言った。

D tattakaṃ dhanaṃ datvā gaṇhituṃ na koci sakkhissati, tañ ca pasādhanaṃ pasādhetuṃ anucchavikā itthiyo nāma dullabhā. pathavimaṇḍalasmiṃ hi tisso va itthiyo mahālatāpasādhanaṃ labhiṃsu: visākhā mahāupāsikā, bandhulamalla-senāpatissa bhariyā mallikā, bārāṇasīseṭṭhino dhītā ti.

それほどの財を払って買えるものは誰もいないだろう。その装身具を身に着けるにふさわしい女は得難い。なぜならこの地上で大蔓草型装身具を得たのは３人の女だけだからである。大優婆夷ヴィサーカー、マッラ国の将軍バンドゥラの妻マッリカー (1) 、バーラーナシー長者の娘 (2) の３人である。

(1) *DhA.*（vol. I　p.349）参照。

(2) 名前が欠落していると思われる。異読（カンボージャの断片写本）に‘dhītā upallavaṇṇā’とするものがある。今は採用せず不明とする。

D tasmā visākhā sayam eva tassa mūlaṃ datvā satasahassādhikā navakoṭiyo sakaṭe āropetvā vihāraṃ netvā satthāraṃ vanditvā, “bhante mayhaṃ ayyena ānandattherena mama pasādhanaṃ hatthena āmaṭṭhaṃ, tena āmaṭṭhakālato paṭṭhāya na sakkā taṃ mayā pilandhituṃ, taṃ pana vissajjetvā kappiyaṃ upanessāmī ti vikkiṇāpentī aññaṃ gaṇhituṃ samatthaṃ adisvā aham ev' assa mūlaṃ gāhāpetvā āgatā, catūsu paccayesu katarapaccaye upanāmemi bhante” ti. pācīnadvāre saṅghassa [413] vasanaṭṭhānaṃ kātuṃ te yuttaṃ visākhe ti. “yuttaṃ, bhante” ti visākhā tuṭṭhamānasā navakoṭīhi bhūmim eva gaṇhi, aparāhi navakoṭīhi vihāraṃ kātuṃ ārabhi.

それゆえヴィサーカーは自分でその装身具の代価を出し、９億と10万金を荷車に載せて、精舎に導き、尊師に礼拝してから、「大徳よ、私の聖者阿難長老が私の装身具に手で触れました。それゆえ、触れられた時から以降、私はそれを身に着けることができません。それならこの装身具を手放して浄物として布施しようと、売りに出しておりましたが、他に買い取ることができる人が見つからず、私がこの代価を払ってやってきました。大徳よ、〔衣・食・住・薬の〕四資具の中、私はいずれの資具を布施すればよいでしょうか」と〔伺った〕。〔釈尊は〕「ヴィサーカーよ、東門にサンガの居処を作るのがあなたに相応しい」と〔答えた〕。ヴィサーカーは「はい、大徳よ」と〔答えて〕満足し、〔その〕９億金で土地だけを買い、さらに９億金を出資して精舎を建立し始めた。

D ath' ekadivasaṃ satthā paccūsasamaye lokaṃ volokento devalokā cavitvā bhaddiyanagare seṭṭhikule nibbattassa bhaddiyassa nāma seṭṭhiputtassa upanissaya-sampattiṃ disvā anāthapiṇḍikassa gehe bhattakiccaṃ katvā uttaradvārābhimukho ahosi. pakatiyāpi satthā visākhāya gehe bhikkhaṃ gaṇhitvā dakkhiṇadvārena nikkhamitvā jetavane vasati, anāthapiṇḍikassa gehe bhikkhaṃ gahetvā pācīnadvārena nikkhamitvā pubbārāme vasati. uttaradvāraṃ sandhāya gacchantañ ñeva bhagavantaṃ disvā, ‘cārikaṃ pakkamissatī’ ti jānanti.

それからある日、尊師が早朝時に世界を観察されていると、天界から死没してバッディヤ市に住む長者の家に生を結んだバッディヤという名の長者子に機根の成就を見て、給孤独の家で食事をしてから、北門に向った。――本来、尊師はヴィサーカーの家で施食を得た場合は南門から出て祇園（精舎）に住し、アナータピンディカの家で施食を得た場合は東門から出て東園に住する習慣であった。〔だから〕人々は北門に向って進まれる世尊を見ると「遊行に出られるのであろう」と理解した。

D visākhāpi taṃ divasaṃ “satthā uttaradvārābhimukho gato” ti sutvā va vegena gantvā vanditvā āha: “cārikaṃ gantukām' attha bhante” ti. “āma, visākhe” ti. “bhante, ettakaṃ dhanaṃ pariccajitvā tumhākaṃ vihāraṃ kāremi, nivattatha, bhante” ti. “anivattigamanaṃ idaṃ visākhe” ti.

ヴィサーカーもその日、「尊師が北門に向って行かれた」と聞くと、急いで行って礼拝し、「大徳よ、遊行をお望みですか」と〔伺った。すると釈尊は〕「そうだ。ヴィサーカーよ」と〔答えられ、ヴィサーカーは〕「大徳よ、これほどの財を捨施して、あなた様の精舎をつくらせているのです。大徳よ、どうかお戻りください」と〔お願いしたが、釈尊は〕「ヴィサーカーよ、これは不退の遊行なのだ」と〔言われた〕。

D sā “addhā ettha hetusampannaṃ kiñci passati bhagavā” ti cintetvā, “tena hi bhante mayhaṃ katākatavijānanakaṃ ekaṃ bhikkhuṃ nivattetvā gacchathā” ti āha. “yaṃ rocesi tassa [414] pattaṃ gaṇha visākhe” ti. sā kiñcāpi ānandattheraṃ piyāyati, “mahāmoggallānatthero iddhimā, etaṃ me nissāya kammaṃ lahuṃ nippajjissatī” ti pana cintetvā therassa pattaṃ gaṇhi. thero satthāraṃ olokesi, satthā “tava parivāre(1) pañcasate bhikkhū gahetvā nivatta moggallānā” ti āha. so tathā akāsi.

（1）底本は parivāro とするが、誤植であろう。

彼女は「きっと世尊は理由になる何かを知っておられる」と考えて、「そういうことでしたら、大徳よ、なすべきこととなすべからざることをわきまえた比丘を一人残されて出発してください」と言った。釈尊は「ヴィサーカーよ、あなたの好む比丘の鉢を取りなさい」と言った。ヴィサーカーは阿難長老が好きではあったが、「大目連長老は神通者だ。この御方の助けで私の仕事は速やかに完成するでしょう」と考えて、〔目連〕長老の鉢を取った。〔目連〕長老は尊師を見た。尊師は「モッガッラーナよ、あなたの従者の 500 人の比丘を連れて戻りなさい」と言った。長老はそのようにした。

D tassānubhāvena paññāsa-saṭṭhiyojanāni pi rukkhatthāya ca pāsāṇatthāya ca gatā mahante rukkhe ca pāsāṇe ca gahetvā taṃ divasaṃ eva āgacchanti, n' eva sakaṭe rukkhe ca pāsāṇe ca āropentā kilamanti, na akkho bhañjati, na cirass' eva dvebhūmakapāsādaṃ kariṃsu. heṭṭhābhūmiyaṃ pañca gabbhasatāni, uparibhūmiyaṃ pañca gabbhasatāni gabbhasahassapaṭimaṇḍito pāsādo ahosi. satthā navahi māsehi cārikaṃ caritvā puna sāvatthiṃ agamāsi. visākhāya pi pāsāde kammaṃ navahi eva māsehi niṭṭhitaṃ. pāsādakūṭaṃ ghanakoṭṭimarattasuvaṇṇena saṭṭhiudakaghaṭa-gaṇhana[415]kaṃ kāresi.

目連長老の威神力によって、〔人々は〕50、60 ヨージャナもの距離を木材と石材をとりに行き、大木と大石を得てその日のうちに帰り、荷車に木と石を載せているのに疲れを知らず、車軸が折れることもなく、久しからずして二階建ての高楼を作った。〔それは〕下階に 500 の房、上階にも 500 の房、〔合わせて〕千の房に飾られた高楼であった。尊師は 9 ヶ月間遊行してから再び舎衛城に趣いた。ヴィサーカーの講堂の建築作業もちょうど 9 ヶ月で完成し、〔ヴィサーカーは仕上げに〕厚く平らに打たれた赤金で講堂の尖塔を作らせそこに 60 個の水瓶を収納した (1)。

（1）火災に備える設備であろうか。

D “satthā jetavanavihāraṃ gacchatī” ti ca sutvā paccuggamanaṃ katvā satthāraṃ attano vihāraṃ netvā paṭiññaṃ gaṇhi: “bhante, imaṃ catumāsaṃ bhikkhusaṅghaṃ gahetvā idh' eva vasatha pāsādaṃ ahaṃ karissāmī” ti. satthā adhivāsesi. sā tato paṭṭhāya buddhapamukhassa bhikkhusaṅghassa vihāre eva dānaṃ deti.

〔ヴィサーカーは〕「尊師が祇園精舎に赴かれる」と聞き、出迎えて、尊師を自分の精舎に案内し、「大徳よ、どうかこの４ヶ月間、比丘サンガを連れてここに住してくださいますよう。私が作っております講堂ももうすぐ完成しますので」といって同意をとりつけた。尊師は承諾した。彼女はそれ以後、仏陀を上首とする比丘サンガに対して、まさにその精舎において布施を施した。

D ath' assā ekā sahāyikā sahassagghaṇakaṃ ekaṃ vatthaṃ ādāya āgantvā, “sahāyike ahaṃ imaṃ vatthaṃ tava pāsāde bhummattharaṇasaṅkhepena attharitukāmā attharaṇaṭṭhānaṃ me ācikkhathā” ti āha. “sahāyike sace tyāhaṃ ‘okāso natthī’ ti vakkhāmi, tvaṃ ‘me okāsaṃ adātukāmā’ ti maññissasi, sayam eva pāsādassa dve bhūmiyo gabbhasahassañ ca oloketvā attharaṇaṭṭhānaṃ jānāhī” ti,

それからヴィサーカーの一人の女ともだちが、千金に価する１枚の布を持ってきて、「友よ、私はこの布を、あなたの講堂にカーペットとして敷きたいのだけれど、私が〔どこに敷いたらよいか〕敷く場所を示してください」と言った。〔ヴィサーカーは〕「友よ、もし私があなたに『敷く場所は〔もう〕ありません』と言ったら、あなたは『ヴィサーカーは私に場所を与えたくないのだ』と思うでしょうから、あなたはご自身で講堂の２つの階の千の房を見回って、敷く場所を決めてください」と〔言った〕。

D sā sahassagghanakaṃ vatthaṃ gahetvā tattha vicarantī tato appataramūlaṃ vatthaṃ adisvā(1) “nāhaṃ imasmiṃ pāsāde puññabhāgaṃ labhāmī” ti domanassappattā ekasmiṃ ṭhāne rodantī aṭṭhāsi. atha naṃ ānandatthero disvā, “kasmā rodasī” ti pucchi. sā tam atthaṃ ārocesi. thero “mā cintayi, ahaṃ te attharaṇaṭṭhānaṃ ācikkhissāmī” ti vatvā, “sopānapādadhovanantare pādapuñchanakaṃ katvā attharāhi; bhikkhū pāde dhovitvā paṭhamaṃ tattha puñ[416]chitvā anto pavisissanti, evaṃ tava mahapphalaṃ bhavissatī” ti āha. visākhāya kira taṃ asallakkhitaṭṭhānaṃ.

（1）底本には disvā とする。ビルマ版により adisvā に訂正する。

彼女は千金に価する布を持って、そこを歩き回っていたが、〔どこにも高価な布がすでに敷いてあって〕それ（自分の布）より安価な布が見つからず、「私はこの高楼で功徳の配分にあずかれない」と憂いを得て、ある場所で泣いていた。その時、阿難長老が彼女を見て「なぜ泣くのか」と尋ねた。彼女は顛末を告げた。長老は「思い悩むことはない。私があなたに敷く場所を示してあげよう」と言って、「あなたは梯子と足洗場の間に、足拭きとして敷いてください。諸比丘は足を洗った後にまずそこで〔足を〕拭いてから中に入るでしょう。このようにすればあなたに大果があるでしょう」と言った。――そこはヴィサーカーが見逃した場所であったそうだ。

D visākhā cattāro māse antovihāre buddhapamukhassa bhikkhusaṅghassa dānaṃ adāsi, osānadivase bhikkhusaṅghassa cīvarasāṭake adāsi. saṅghanavakena laddhacīvara- sāṭakā sahassaṃ agghiṃsu. sabbesaṃ pattāni pūretvā bhesajjaṃ adāsi. dānapariccāgena nava koṭiyo agamaṃsu. iti vihārassa bhūmigahaṇe nava koṭiyo, vihārakārāpaṇe nava vihāramahe navā ti sabbā pi sattavīsati koṭiyo buddhasāsane pariccaji. itthattabhāve ṭhatvā micchādiṭṭhikassa gehe vasamānāya evarūpo pariccāgo nāma aññassā natthi.

ヴィサーカーは４ヶ月の間、精舎内で、仏陀を上首とする比丘サンガに布施を施し、最後の日（自恣の日）に、比丘サンガに衣の布地を施した。サンガの新参者が得た衣の布地は千金に価した。鉢を満たして全員に薬を施した。布施の費用で９億金が出費された。このようにして、精舎の地所を得るのに９億金、精舎の建立に９〔億金〕、精舎の落慶式に９〔億金〕で、合計で27億金を仏教に捨施した。女性の身にあって、邪見の者の家に住みながら、このような捨施を行ったものは他にはいない。

D sā vihāramahassa niṭṭhitadivase vaḍḍhamānakacchāyāya puttanattaparivutā “yaṃ mayā pubbe patthitaṃ sabbaṃ me matthakaṃ pattan” ti pāsādaṃ anuparigacchantī

pañcahi gāthāhi madhurasaddena imaṃ udānaṃ udānesi:

“kadāhaṃ pāsādaṃ rammaṃ sudhāmattikalepanaṃ
vihāradānaṃ dassāmi, saṅkappo mayha pūrito.
kadāhaṃ mañcapīṭhañ ca, bhisibimbohanāni ca
senāsanabhaṇḍaṃ dassaṃ, saṅkappo mayha pūrito.
[417] kadāhaṃ salākabhattaṃ, sucimaṃsūpasecanaṃ
bhojanadānaṃ dassāmi, saṅkappo mayha pūrito.
kadāhaṃ kāsikavatthaṃ, khomakappāsikāni ca
cīvaradānaṃ dassāmi, saṅkappo mayha pūrito.
kadāhaṃ sappinavanītaṃ, madhu telañ ca phāṇitaṃ
bhesajjadānaṃ dassāmi, saṅkappo mayha pūrito” ti.

彼女は精舎の落慶式が終了した日に、夕闇が迫る中、子と孫に囲まれて、「私が以前に望んだことのすべてが、私にこれ以上はない仕方でかなった」ということで、講堂を歩き回りながら、５偈をもって、甘い声で、この感興語を発した。

いつ私は、漆喰と粘土を塗った美しい講堂を、精舎の布施として施すであろうかという私の思いは満たされた。

いつ私は、臥床・椅子と敷布・枕とを、臥坐具として施すであろうかという私の思いは満たされた。

いつ私は、籌食を、浄肉のふるまいを、食事の布施として施すであろうかという私の思いは満たされた。

いつ私は、カーシ産の布と、麻布・綿布とを、衣の布施として施すであろうかという私の思いは満たされた。

いつ私は、酥、生酥、蜜、油、糖を、薬の布施として施すであろうかという私の思いは満たされた。

D bhikkhū tassā saddaṃ sutvā satthu ārocayiṃsu: “bhante amhehi ettake addhāne visākhāya gāyanaṃ nāma na diṭṭhapubbaṃ, sā ajja puttanattaparivutā gāyamānā pāsādaṃ anupariyāti, kiṃ nu kho assā pittaṃ kupitaṃ udāhu ummattikā jātā” ti. satthā “na bhikkhave mayhaṃ dhītā gāyati, attano pan' assā ajjhāsayo paripuṇṇo, sā ‘patthitapatthanā me matthakaṃ pattā’ ti tuṭṭhamānasā udānaṃ udānentī vicaratī” ti vatvā, “kadā pana bhante tāya patthanā patthitā” ti, “suṇissatha bhikkhave” ti, “suṇissāma bhante” ti vutte atītaṃ āhari:

諸比丘は、彼女の声を聞いて、尊師に「大徳よ、私たちはこれまでの間、ヴィサーカーが歌うのなんて見たことがありませんでした。今日、彼女は子と孫に囲まて、歌いながら講堂を歩き回っています。彼女の胆汁が乱れたのでしょうか、それとも彼女に狂気が生じたのでしょうか」と告げた。尊師は「比丘たちよ。私の娘は歌っているのではなくして、彼女は自身の願望を満たしたので、『かけた願いが私にこれ以上はない仕方でかなった』と満足し、感興語を発しながら歩き回っているのだ」と言った。「大徳よ、それならば何時、彼女は願いをかけたのでしょうか」と〔諸比丘が問うと〕、「比丘たちよ、聞きなさ

い」と〔呼びかけた〕。「はい、拝聴します、大徳よ」と〔諸比丘が答えると〕、〔尊師は〕過去のことを語り始めた。……

A sā ekadivasaṃ nagare nakkhattasamaye vattante “antonagare guṇo natthī” ti dāsīhi parivutā satthu dhammakathaṃ sotuṃ gacchantī “buddhānaṃ santikaṃ uddhatavesena gantuṃ ayuttan” ti mahālatāpasādhanaṃ omuñcitvā dāsiyā hatthe datvā satthāraṃ upasaṃkamitvā abhivādetvā ekamantaṃ nisīdi. satthā dhammakathaṃ kathesi. sā dhammadesanāpariyosāne dasabalaṃ vanditvā nagarābhimukhā pāyāsi. sā pi dāsi attanā gahitapasādhanassa ṭhapitaṭṭhānaṃ asallakkhetvā gacchantī pasādhanatthāya paṭinivatti.

ヴィサーカーはある日、都でお祭りがあった時に、「都の中には徳がない」といって、下女らに囲まれて、尊師の法話を聞きに行き、「諸仏のもとに浮ついた装いで行くのはよろしくない」と〔考え〕、大蔓草型装身具をはずして、下女に手渡し、尊師に近づいて礼拝し、一方に坐った。尊師は法話を説いた。〔ヴィサーカーは〕法の説示が終わると、十力者に礼拝してから都に向って出発した。けれどもその下女は、自ら預かった装身具を置いた場所に目もくれずに〔忘れて〕行ってしまい、装身具のために再び戻ることになった。

A atha naṃ visākhā “kahaṃ pana te taṃ ṭhapitan” ti paṭipucchi. “gandhakuṭipariveṇe ayye” ti. “hotu je gantvā āhara, gandhakuṭipariveṇe ṭhapitakālato paṭṭhāya āharāpanaṃ nāma amhākaṃ ayuttaṃ, tasmā taṃ vissajjetvā daṇḍakammaṃ karissāma, tattha pana ṭhapite ayyānaṃ palibodho hotī” ti.

その時（下女に装身具を取りに行かせる時）、ヴィサーカーは下女に「おまえはそれをどこに置き忘れたの？」と訊ね、〔下女が〕「香房（釈尊の部屋）です。大姉よ」と〔答えたので〕、「そうですか、さあ、行って取ってきなさい。香房に一度置いてしまったからには、〔本当は〕取ってくるなんてことは私たちにとってよくないのだけれど、香房に置いておくと聖者たちの障碍になるでしょうから、〔取ってきた後で〕私たちはその装身具を手放して償いをしましょう」と〔下女に言った〕。

A punadivase satthā bhikkhusaṃghaparivuto visākhāya nivesanadvāraṃ sampāpuṇi. nivesane ca nibaddhapaññattāni āsanāni. visākhā satthu pattaṃ gahetvā satthāraṃ gehaṃ pavesetvā paññattāsanesu yeva nisīdāpetvā katabhattakicce satthari taṃ pasādhanaṃ āharitvā satthu pādamūle nikkhipitvā “idaṃ bhante tumhākaṃ dammī” ti āha. satthā “alaṃkāro nāma pabbajitānaṃ na vaṭṭatī” ti paṭikkhipi. “jānāmi bhante, ahaṃ pana imaṃ agghāpetvā dhanaṃ gahetvā tumhākaṃ vasanagandhakuṭiṃ kāressāmī” ti. tadā satthā adhivāsesi.

翌日、尊師は比丘サンガに囲まれて、ヴィサーカーの家の門に到来した。家には常に設けられている席があった。ヴィサーカーは尊師の鉢を取って、尊師を家に招き入れ、設けられていた席に坐ってもらい、尊師が食事を終えると、その装身具を取り出して、尊師の足もとに置いて、「大徳よ、これをあなた様に差し上げます」と言った。尊師は「装飾品は出家者には不適当です」と拒絶した。〔ヴィサーカーは〕「大徳よ、わかりました。それでは私はこれを鑑定させて財を得て、あなた様の住まわれる香室を作らせましょう」と

〔言った〕。その時、尊師は承諾した。

A sā pi naṃ agghāpetvā navakoṭidhanaṃ gahetvā gabbhasahassapaṭimaṇḍite pubbārāmavihāre tathāgatassa vasanagandhakuṭiṃ kāresi. visākhāya pana nivesanaṃ pubbaṇhasamaye kāsāvapajjotaṃ isivātapaṭivātam eva hoti. anāthapiṇḍikassa gehe viya tassā pi gehe sabbabhattāni paṭiyattān' eva ahesuṃ. sā pubbaṇhasamaye bhikkhusaṃghassa āmisasaṃgahaṃ katvā pacchābhatte bhesajjāni c' eva aṭṭhavidhapānakāni ca gaṇhāpetvā vihāraṃ gantvā bhikkhusaṃghassa datvā pacchā satthu dhammadesanaṃ sutvā āgacchati. satthā aparabhāge upāsikāyo paṭipāṭiyā ṭhānantaresu ṭhapento visākhaṃ migāramātaraṃ dāyikānaṃ aggaṭṭhāne ṭhapesī ti.

彼女はそれを鑑定させて、９億金を得て、千の房に飾られた東園精舎に、如来の住まわれる香室を作らせた (1) 。またヴィサーカーの家は午前中には袈裟衣で輝き、風に押し流されない聖者のそよ風がただよった (2) 。給孤独の家と同様に、彼女の家にもありとあらゆる食が用意されていた。彼女は、午前中には比丘サンガに〔食や資具の〕物資の援助をなし、食後には薬と８種の飲物を人にもたせて精舎に行って比丘サンガに施した後、尊師の説法を聞いて帰った。尊師は、後に優婆夷たちの順位を定めて、ヴィサーカー・ミガーラマーターを施与者第一の位に置いた。

（1）ここでいう香室は、鹿子母講堂を意味しているのであろう。

（2）kāsāvapajjotaṃ isivātapaṭivātam eva hoti. この箇所の訳出については『ジャータカ全集４』春秋社、1988 年の p.146 及び該当箇所の注釈 p.311（松村恒氏担当）を参照した。

［22］ヴィサーカーの過去世における功績：*DhA.*（vol. I p.417, l.16～p.420,l.7）；*AN.-A.*（vol. I p.404,l.20～p.405,l.10）

D “bhikkhave ito kappasatasahassamatthake padumuttaro nāma buddho loke nibbatti, tassa vassasatasahassaṃ āyu ahosi, khīṇāsavānaṃ satasahassaṃ parivāro, nagaraṃ haṃsavatī nāma, pitā sunando nāma rājā, mātā sujātā nāma devī.

比丘たちよ、今より 10 万劫前にパドゥムッタラという名の仏陀 (1) が世に出現した。彼には 10 万年の寿命があり、10 万人の漏尽者を従者とし、その都はハンサヴァティーという名であり、父親はスナンダ王であり、母親はスジャーター王妃であった。

（1）パドゥムッタラ仏はディーパンカラ仏から数えて 10 番目の釈尊から遡ること 10 万劫前の仏陀。

D tassa aggūpaṭṭhāyikā upāsikā aṭṭha vare yācitvā mātiṭṭhāne ṭhatvā satthāraṃ catūhi paccayehi paṭijaggati, sāyapātaṃ upaṭṭhānaṃ gacchati, tassā ekā sahāyikā tāya saddhiṃ nibaddhaṃ vihāraṃ gacchati. sā satthārā saddhiṃ vissāsena kathanañ ca vallabhabhāvañ ca disvā ‘kiṃ nu kho katvā evaṃ buddhānaṃ vallabhā hontī’ ti cintetvā satthāraṃ pucchi: ‘bhante esā itthī tumhākaṃ kiṃ hotī’”ti. “upa[418]ṭṭhāyikānaṃ aggā” ti. “bhante kiṃ katvā upaṭṭhāyikānaṃ aggā hontī” ti “kappasatasahassaṃ patthanaṃ patthetvā” ti. “idāni patthetvā laddhuṃ sakkā bhante” ti. “āma sakkā” ti. “tena hi bhante bhikkhusatasahassehi saddhiṃ sattāhaṃ mayhaṃ bhikkhaṃ gaṇhathā” ti āha. satthā adhivāsesi.

彼の第一の侍者優婆夷は、８願を請い、〔舅の〕母親の立場に立ち、四資具をもって尊師のお世話をし、朝夕に仕えに行った。彼女の一人の女ともだちがいつも彼女と一緒に精舎に行っていた。その女ともだちは、彼女が尊師と親しく語り合い、愛されている様を見て、「いったい何をすれば人はこのように諸仏に愛されるのだろう」と考えて、尊師に「大徳よ、この女はあなた様の何ですか」と訊ねた。〔尊師が〕「彼女は女侍者の中の第一人者である」と〔答えると、彼女は〕「大徳よ、人は何をすれば女侍者の中の第一人者になれるのでしょうか」と〔訊き、尊師が〕「10 万劫の間、願いをかけて」と〔答えると、彼女は〕「大徳よ、今願えば、〔私も〕そうなれるでしょうか」と〔訊ねた。尊師が〕「はい、なれます」と〔答えると、彼女は〕「そういうことであれば、大徳よ、10 万人の比丘とともに７日間、私の施食をお受けください」と言った。尊師は承諾された。

D sā sattāhaṃ dānaṃ datvā osānadivase cīvarasāṭake datvā satthāraṃ vanditvā pādamūle nipajjitvā “bhante nāhaṃ imassa dānassa phalena devissariyādīnaṃ aññataraṃ patthemi, tumhādisassa pan' ekassa buddhassa santike aṭṭha vare labhitvā mātiṭṭhāne ṭhatvā catūhi paccayehi paṭijaggituṃ samatthānaṃ aggā bhaveyyan” ti patthanaṃ patthesi.

彼女は、７日間にわたって布施を施し、最後の日（７日目）に衣の布地を施してから尊師に礼拝し、足もとにひれ伏して、「大徳よ、この布施の果によって、私は〔帝釈天の〕神々を統べる主権などは選びません。私はあなた様と同様の一人の仏陀のもとで、８願を許され、〔舅の〕母親の立場に立ち、四資具をもってお世話することができる者たちの中で第一人者になれますように」と願いをかけた。

D satthā “samijjhissati nu kho imissā patthanā” ti anāgataṃ āvajjento kappasata-sahassaṃ oloketvā “kappasatasahassapariyosāne gotamo nāma buddho upajjissati, tadā tvaṃ visākhā nāma upāsikā hutvā tassa santike aṭṭha vare labhitvā mātiṭṭhāne ṭhatvā catūhi paccayehi paṭijaggantānaṃ upaṭṭhāyikānaṃ aggā bhavissasī” ti āha,

尊師は「はたしてこの女の願いはかなうであろうか」と考え、未来に傾注して 10 万劫〔未来まで〕を観察し、「10 万劫を過ぎたところでゴータマという仏陀が出現し、その時にあなたはヴィサーカーという名の優婆夷になって、その仏のもとで８願を許され、〔舅の〕母親の立場に立ち、四資具をもってお世話をする女侍者たちの中の第一人者になるでしょう」と言った。

D tassā sā sampatti sveva laddhabbā viya ahosi, sā yāvatāyukaṃ puññaṃ katvā tato 3cutā devaloke nibbattitvā devamanussesu saṃsarantī kassapasammāsambuddhassa kāle kikissa kāsirañño sattannaṃ dhītānaṃ kaniṭṭhā saṅghadāsī nāma hutvā parakulaṃ agantvā tāhi bhaginīhi saddhiṃ dīgharattaṃ dānādīni puññāni katvā kassapasammā-sambuddhassa pādamūle pi “anāgate tumhādisassa buddhassa mātiṭṭhāne ṭhatvā catupaccayadāyikānaṃ aggā bhaveyyan” ti patthanaṃ akāsi. tato paṭṭhāya pana devamanussesu saṃsarantī imasmiṃ attabhāve meṇḍakaseṭṭhi [419]puttassa dhanañjayaseṭṭhino dhītā hutvā nibbattā mayhaṃ sāsane bahūni puññāni akāsi.

彼女には、その〔願いの〕成就がまるで明日にも得られるように思えたので、彼女は生涯善を行い、そこから死没すると天界に生を結び、天界と人間界〔だけ〕を輪廻しながら〔畜生道以下には再生せず〕、カッサパ正等覚者の時代に、カーシ国のキキ王の７人娘の末娘でサンガダーシーという名のものになり、嫁がずに、姉たちとともに長時にわたって布施などの善を行い、〔パドゥムッタラ仏の足もとにおいてと同様に〕カッサパ正等覚者の足もとにおいても、「未来に、〔舅の〕母親の立場に立ち、あなた様と同様の仏陀に対して四資具を布施する者の第一人者になれますように」と願った。それ以後も、彼女は天界と人間界〔だけ〕を輪廻し、今生においてメンダカ長者の息子のダナンジャヤ長者の娘として生を結び、私の教えにおいて多くの善を行った。

D iti kho bhikkhave na mayhaṃ dhītā gāyati(1), patthitapatthanāya pana nipphattiṃ disvā udānaṃ udānesī" ti vatvā satthā dhammaṃ desento, "bhikkhave yathā nāma cheko mālākāro nānāpupphānaṃ mahantaṃ rāsiṃ katvā nānappakāre mālāguṇe karoti, evam eva(2) visākhāya nānappakārāni kusalāni kātuṃ cittaṃ namatī" ti vatvā imaṃ gātham āha:

"yathā pi puppharāsimhā(3) kayirā mālaguṇe bahū,
evaṃ jātena maccena kattabbaṃ kusalaṃ bahun" ti. (*Dh.* v.53)

(語釈略)

desanāvasāne bahū sotāpannādayo ahesuṃ, desanā mahājanassa sātthikā jātā ti.

(1) 底本は gāyatī ti とするが、異読を採用し、ti を削除する。
(2) 底本は evam evaṃ とするが異読により evam eva に訂正する。
(3) 底本は pupparāsimhā とするが、誤植であろう。

……「このように、比丘たちよ、私の娘は歌ったのではなく、かけた願いがかなったのを見て、感興語を発したのだ」と〔物語を〕語り終えてから、尊師は法を示しつつ「比丘たちよ、賢い花環作り師が種々の花をたくさん集めてからいろいろな種類の花環を作るように、まさにそのようにヴィサーカーの心は、いろいろな種類の善をなすことに向かう」と言って、この偈を誦した。

たくさんの花から多くの花環が作られるように、
死すべきもの（人間）は、生まれたからには多くの善をなすべし。

説示の終わりに大勢が預流果などを獲得した。説示は大衆にとって有意義なものとなった。

A dutiye dāyikānan ti dānābhiratānaṃ upāsikānaṃ visākhā migāramātā aggā ti dasseti.

sā kira padumuttarabuddhakāle haṃsavatiyaṃ kulagehe nibbattitvā aparabhāge satthu dhammadesanaṃ suṇantī satthāraṃ ekaṃ upāsikaṃ dāyikānaṃ aggaṭṭhāne ṭhapentaṃ disvā adhikārakammaṃ katvā taṃ ṭhānantaraṃ patthesi. sā kappasata-shassaṃ devamanussesu saṃsaritvā kassapabuddhakāle kikissa kāsirañño gehe sattannaṃ bhaginīnaṃ sabbakaniṭṭhā hutvā nibbatti. tadā hi

samaṇī samaṇaguttā ca bhikkhunī bhikkhadāyikā
dhammā c' eva sudhammā ca saṃghadāsī ca sattimā ti

imā satta bhaginiyo ahesuṃ. tā etarahi

khemā uppalavaṇṇā ca patācārā ca gotamī
dhammadinnā mahāmāyā visākhā c' eva sattamī
evaṃnāmā hutvā nibbattā.

（*AN.-A.*のヴィサーカーの物語の冒頭）第二に、「布施者の〔中の第一〕」とは、布施を好む優婆夷の中でヴィサーカー・ミガーラマーターが第一であるということを示す。

伝え聞くところでは、ヴィサーカーはパドゥッムタラ仏陀の時代に、ハンサヴァティー市の良家に生を結び、後に尊師の説法を聞きながら、尊師がある優婆夷を施与者第一の位に置くのを見て〔自身も〕徳行を行い、その位〔に就くこと〕を願った。彼女は10万劫の間、天界と人間界に〔だけ〕輪廻し、カッサパ仏陀の時代に、カーシ国のキキ王の家に７人姉妹の末娘として生を結んだ。その時、

「サマニー、サマナグッター、ビックニー、ビッカダーイカー、ダンマー、スダンマー、サンガダーシーのこれら７人」(1) と、

これらの７人姉妹があった。これらの７人は今（釈尊の時代）、

「ケーマー、ウッパラヴァンナー、パターチャーラー、ゴータミー、ダンマディンナー、マハーマーヤー、そして７番目のヴィサーカー」(1) 〔と〕、

このような名前になって生を結んだ。

(1) 【2】の［7］、【4】の［10-12］参照